

V

各部屋の設計

各室の設計の基本は、各室がどのような行為の空間となるかという点と、その行為に必要な実際のスペースの見極め、および必要な家具什器は何

で、どのような配置がなされるかという点を十分に考慮することです。

1 居間

居間で行なわれる行為は特定できるものではありません。強いていうならば水まわり空間で行なわれる以外の行為のすべてが行なわれるのです。眠ることも、勉強することも行なわれます。基本的には家族と共にだんらんを楽しみくつろぐ空間です。

まず広いことです。その他の諸室よりも広く伸

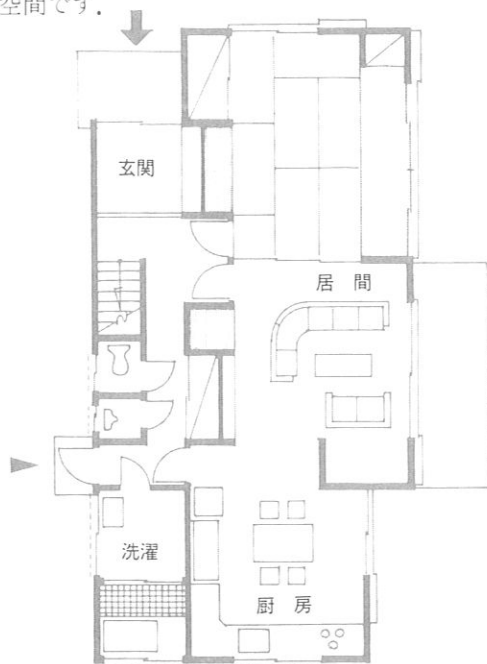
び伸びと造りたいものです。その他の諸室は必要最小限の面積としても、居間は特に目的のないゆとりの広さを設けるべきです。

ソファセット、飾り棚、ステレオ、ピアノが置ければそれでいいと考えるのは誤りです。ゆとりは心理的、精神的な感覚であり、真に人間のための空間です。

✕ の例

食堂との連絡はよく考えられています。しかし部屋の中央に置かれたソファは、まとまった余裕の空間をつぶしてしまい、ソファに座っても、後ろを歩く人がいて、落ちつきません。また、ソファに座った人の位置によってはキッチンセットがよく見えます。

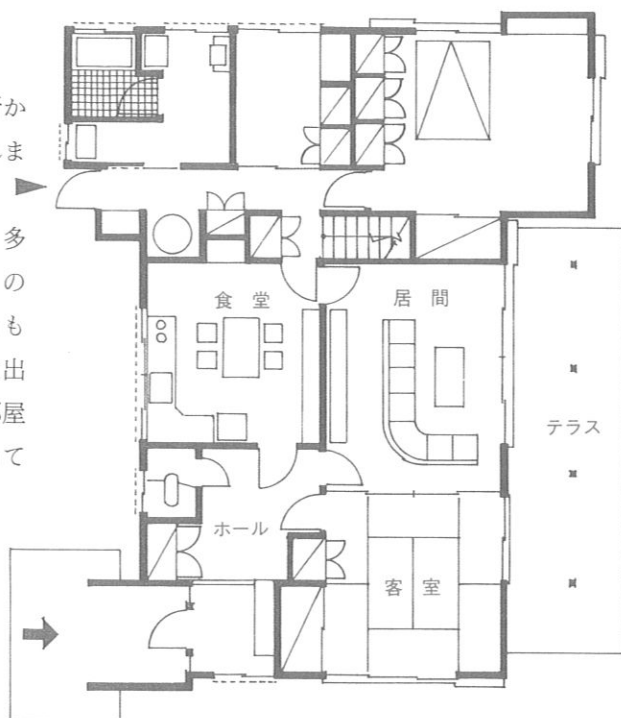
その他の問題としては、階段が玄関に直接取りついている、厨房と洗濯場の連絡、家事空間から玄関への連絡が悪いなどがあげられます。



Xの例

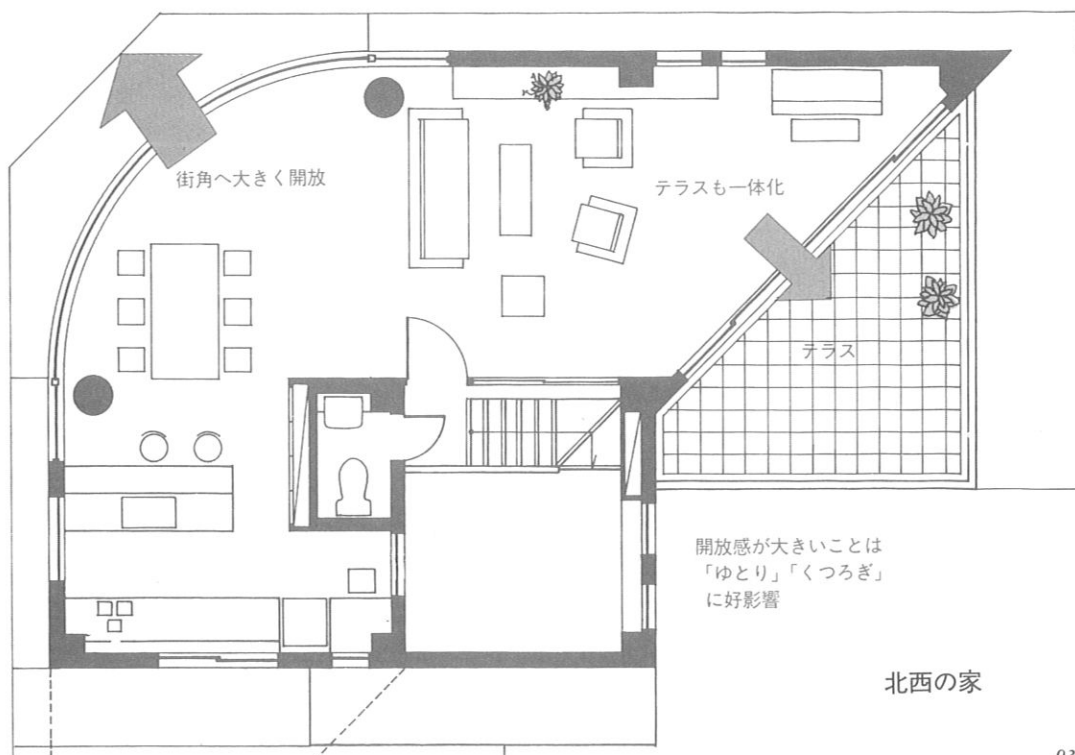
居間といっても、食堂との連絡がドア1カ所からのみで不十分であり、生かされないかもしれません。むしろ応接間の性格が強いといえます。

東のテラスに向っては大きな窓を設けたい、多数の来客のあるときには客室と一体化して使うのでフスマとしたい、食堂からも玄関ホールからも出入りしたい、ということで、あちらこちらに出入りのできる所だけです。十分落ち着いた部屋とはならず、ソファの置き方もぎこちなくなっています。

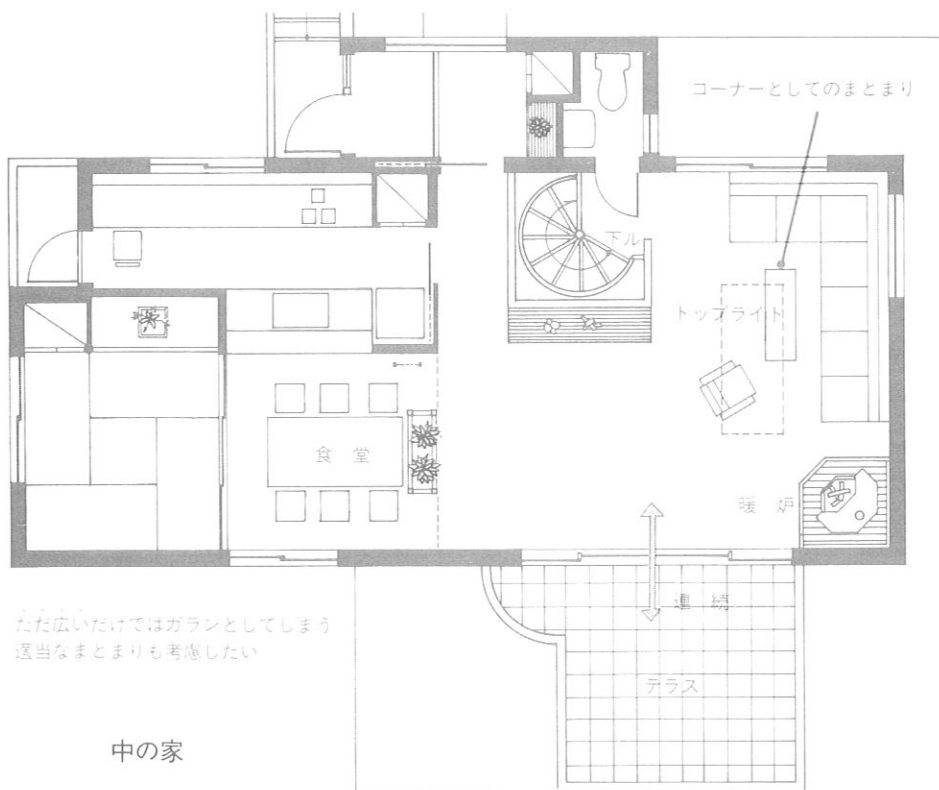


ゆとりに大きく影響を及ぼすことに、外部空間への視野の広がりが増えられます。大きな開口を通して外が見えることは開放感にプラスであり、くつろぎに好影響を与えます。しかし、窓の外にすぐ隣家の壁が見えたり、隣家からまる見えとな

ってしまう位置に大きな窓を設けても意味はありません。街中の狭小敷地では、どの方向に窓を設けても見えるものは隣家ばかり、という場合もあります。その場合には、天に向って窓を設けたり、壁で囲んで坪庭を設けることもよいでしょう。



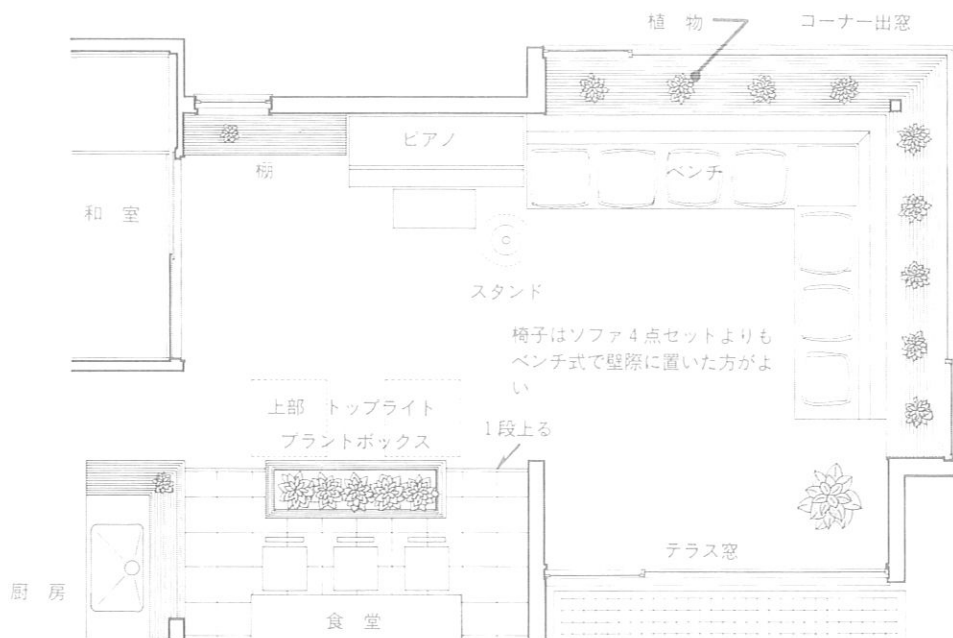
北西の家



中の家

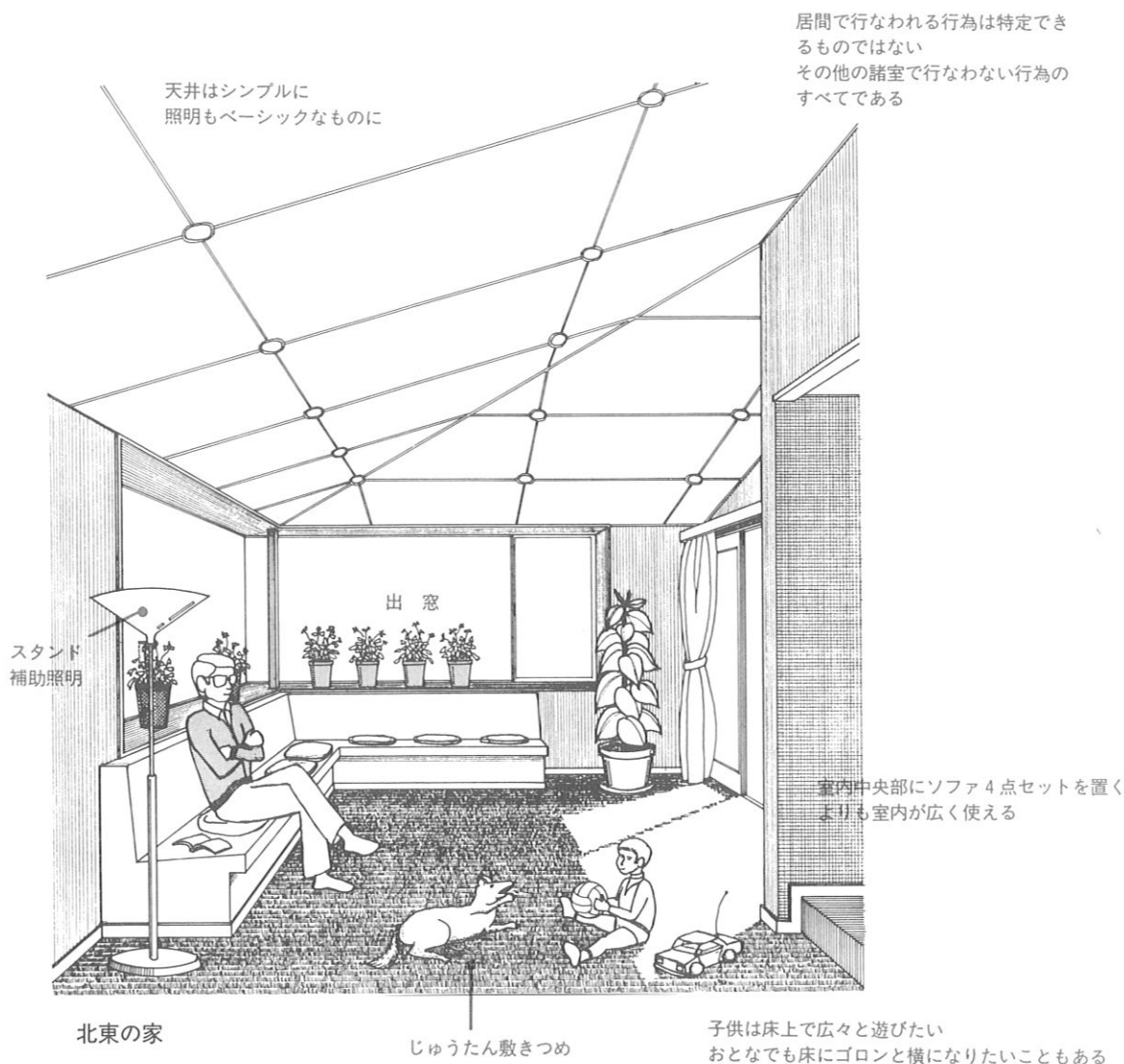
居間に置かれる家具などは雑多といえます。壁面につけて置く家具と、離して置く家具とを区別してリストアップし建築家に伝えなければなりま

せん。居間には大きな開口を設けたいのですが、これらが明確でないと出来上ってから窓にかかって家具を置くことにもなりかねません。



北東の家

開口部は単に床から天井までのテラス窓を設ければいいということはない。人の動き、家具の置き方を十分に考慮する



居間にはすぐにソファセットが置かれるものと連想されるようです。応接室でない「居間」では対面式ソファセットは似合わないのではないのでしょうか。家族間の雑談を、顔を見合わせて行うこともないということです。

照明は好みの問題が大きいので一概にはいえませんが、キラキラ光る器具自体の存在を主張するシャンデリアタイプはだんらんの空間には向かないと考えます。家族でゲームに興ずるときは居間全体を明るくし、大人だけの時間にはテーブルのまわりだけがほの明るいような演出を考えてみてはいかがでしょうか。

空間が大きくなり、窓面も広いので冷暖房については建築家の説明を十分に受けなければなりません。

暖房については床暖房がもっとも良いのですがイニシャルコスト、ランニングコスト共に高価です。一般には温風を床に向かって吹き出すタイプのものでよいでしょう。冷房はいずれの場合も電気式となりますが、冷風のサーキュレーションを十分に考慮しなければなりません。換気扇は集まる人数とタバコを吸うか否かで容量を決めますが、熱交換型がよいでしょう。



北東の家

居間から厨房・食堂を見る

食堂へは1段上る。境には収納を兼ねたプラントボックスが置かれている

2つのリビング

日本の伝統的家屋の構成を再考察する気運から、リビングを2つ設けた方がよいとする意見が生まれている。接客を重視し床の間を持つ「座敷」と、家族がくつろぐ「茶の間」の2つの部屋を設けるものが日本家屋の伝統的な造りであったという。ところが戦後の民主主義の風潮から、客よりも日常の生活を重視するいわゆるリビングルームがもてはやされ今日に至っている。

住宅政策が量より質へと転換され、伝統を考えるブームでもあるようであり、このような中で日本の住宅には接客ができる空間がやはり必要なのだとするものである。「座敷」にかわり、おとなのために多少リッチな「フォーマルリビング」を、「茶の間」にかわり、家族・子供のために「ファミリーリビング」を設けようとする提案である。

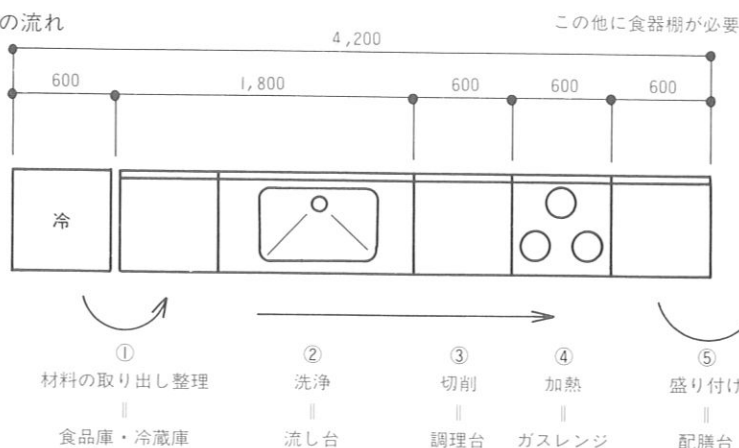
あくまで経済的事情によるが、全体規模の制約の中で2つのリビングを設けようとするれば小さな部屋が2つできることになる。「場合によって仕切れる」方式はウサギ小屋の発想である。現在の意味でのリビングルームも抵抗なく受け入れられており、今はまだうまく使いこなせていなくとも、新しい伝統として定着する可能性を持っている。ひろびろとゆとりのある空間づくりを目指したいものである。

2 厨房

作業の流れをとどこおらせない厨房機器配置と、作業の段階に応じた用具の取り出しや収納がスムーズにできることが厨房設計のポイントとなります。しかしあまりにも作業を重要視するために調

理工場になってしまい、厨房内で働く主婦に圧迫感や閉そく感を与えないよう、自然光を取り入れたり、庭が見えたりという思いやりのある工夫をすることが望まれます。

一般的な作業の流れ



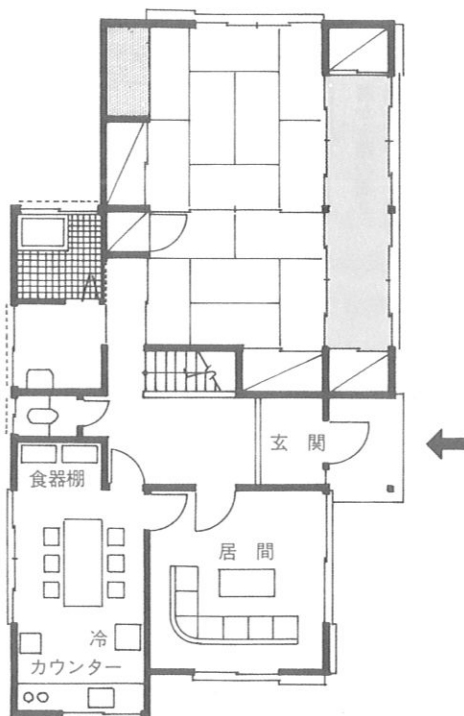
図は右進みですが、主婦それぞれのクセによって、当然左進みの場合もあります。厨房では食事

の後片付けも行なわれるので⑥食器台⑦水切り台⑧食器棚という流れもあります。

✕ の例

変に細長いダイニングキッチンです。基本的に流し台、ガス台の作業カウンター長さが足りません。冷蔵庫と小物置台をばらばらに置くしかなく、一連の作業の流れからはずれています。食器棚が作業ラインと反対の部屋の隅にあるなど問題が多いといえます。

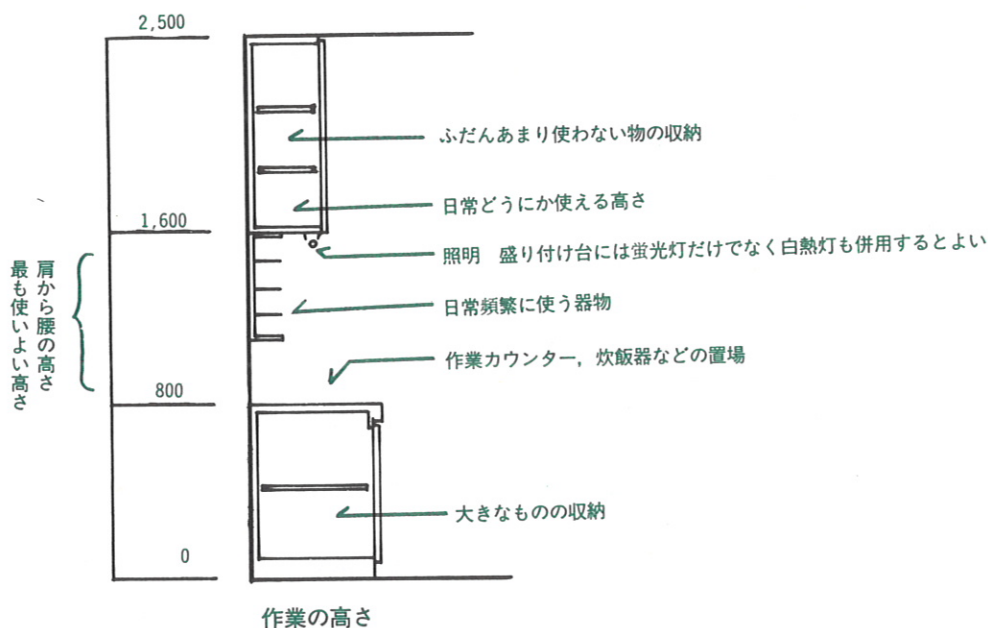
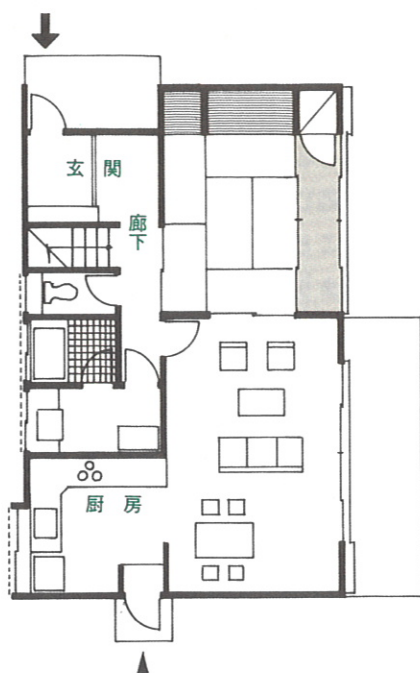
その他の問題として、食堂と居間の連絡がいかひとつのこと、トイレの出入りが玄関直接であることなどがあげられます。



✕の例

作業カウンター長さとしては十分ですが、ガス台、流し台の位置が悪いといえます。位置を変えると、排気のための風道が必要になってきます。厨房としての部屋は広いのですが、勝手口、窓があり、部屋の中央部が活かされていません。

その他の問題として、廊下の奥が暗い、トイレドアが内開きとなっている、玄関と2階の子供室が直通になっている、家事空間と玄関が遠いなどがあげられます。



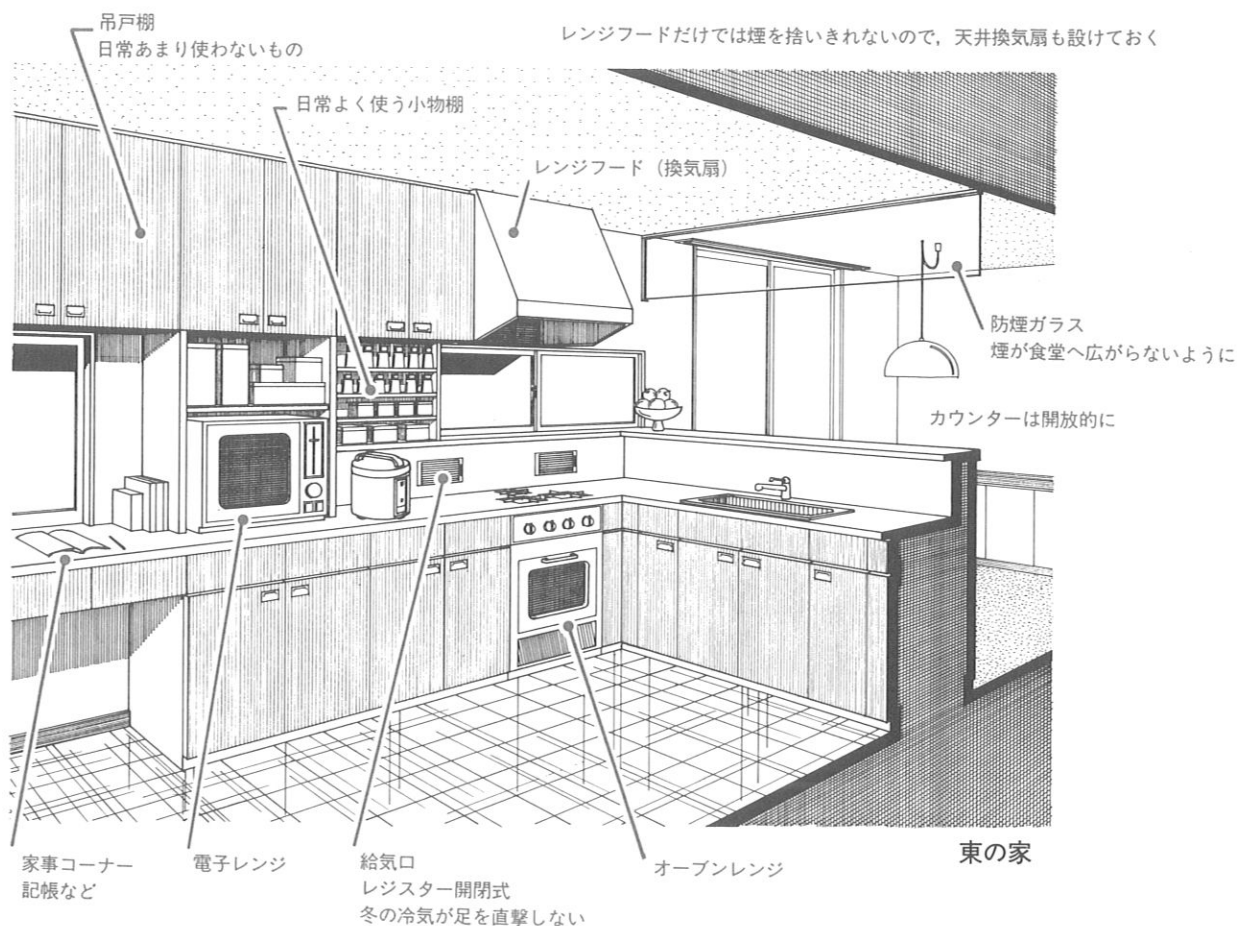
設計側「東の家」では1列配置では長くなり過ぎる作業ラインをL字型配置とし、歩くことなく振り返るだけで作業が行なえるようにしています。

西側ラインは上部に日常あまり使用しないものを収納しておく吊戸棚、中段は頻繁に使用する物

品用の開放棚、そしてカウンター部分は開放的に造ってあります。東側は食器戸棚と冷蔵庫です。

外部に面した窓を設け、対面カウンターにより食堂と一体化しています。

照明は機能本位に全体照明と棚下灯を併用



厨房内の冷暖房は特に設けないのが普通です。しかし冬期の立ち作業時の足の冷えには小型の床置きパネルヒーターが有効です。家具工事としてカウンターを造るのであれば巾木部分に温風吹出機を組み込むのもよいでしょう。

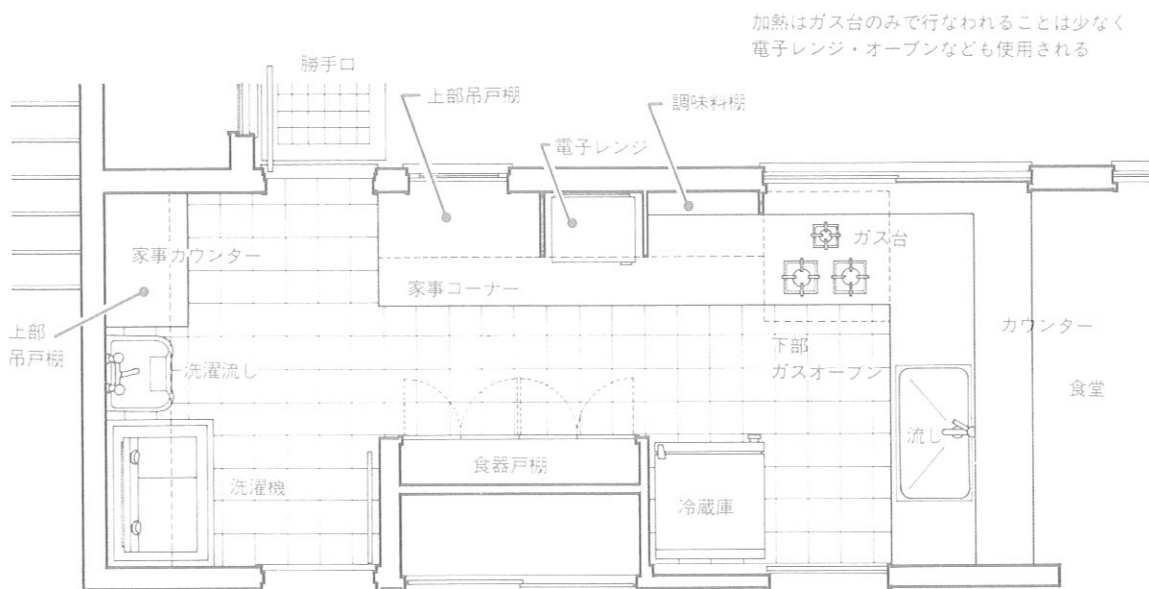
換気には十分注意してください。ガス使用部分には大型のレンジフードを設けるのは当然ですが、それでも煙や臭いを拾いきれないことが多いのです。補助として天井換気扇を設けておくとういでしょう。

排気を十分に行なうためには給気が必要です。通常はどこかしらから空気を引いてくるものですが、気密性の高いサッシが閉じられていては期待できないので給気口を設けます。給気口を勝手口ドアなどにガラリとして安易に設けると冬の冷氣

が足を直撃することになります。設計例ではガス台に近く両脇に設けています。

内装は、水と汚れと火の対策が中心になります。床には水がこぼれますのでビニル系の長尺シートの類がよいでしょう。木質パネルでも塗装の向上により表面はあまり心配はいりませんが、つぎ目に不安が残ります。

ガス台前の壁などはタイルを貼る場合が多いのですが、タイル目地の油污は落としにくいものです。目地が少なくなるよう、大型タイルを選ぶようにしたいものです。天井もいつのまにか油污がついてきます。雑布で拭けるようなビニルクロス貼りにするか、セラミック化粧のセメント板を張るなどします。この材料は壁に使用してもよいものです。



東の家

専用コンセントの必要な器具が多い
ほとんどがアースも必要
使用器具を明確に

ガス台を対面カウンター位置とし、排気を
ダウトで引く方法は避ける

照明は機能本位で明るいものを天井中央部に、作業面を照らす補助照明を棚下の各所に設けます。白熱灯を併用すると料理の色どりを見るのに都合がよいものです。

システムキッチンがもてはやされています。多くの場合、業者の設計施工で工事されるので、住

宅全般の設計から切り離されることもあります。この場合でも厨房設計の基本に変化はないのですから、美しい商品に惑わされることなく、使用する主婦の独自のやり方というものを十分に考慮に入れるべきです。

3 ユーティリティ

家事全般を行う部屋の総称です。洗濯、アイロン掛け、裁縫、家計簿づけが行なわれ、雑布を洗う流しがあり、掃除具の収納部分などが設けられるのが一般的です。多くの場合、外への出入口が設けられ、サービスヤードにつながっています。場合によっては趣味的な作業の行なわれる部屋で

もあります。

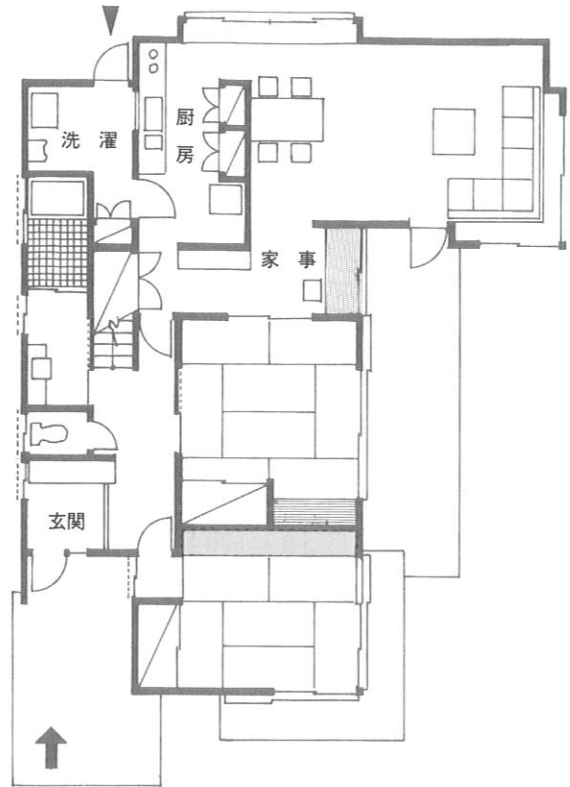
部屋の広さには特に厨房のように欲しい広さというものはなく、洗濯機とミシンさえ置ければ、その他のことは食堂のテーブルを使えばよいということもあります。

✕の例

洗濯機、雑流しを置き、その背面には家事コーナーが独立して東の庭に面し設けられています。明るく雰囲気がよいようです。ここではミシン掛け、家計簿づけなどが行なわれます。

家事空間が、厨房、洗濯、家事コーナーと3カ所に分散した状態になっています。そのため、主婦の歩く距離が大きくなっています。またミシン掛けや裁縫は途中のままにしておくことも多いのですが、居間や食堂に出入りする人すべての目にとまってしまいます。

この場合も玄関までは遠く欠点といえます。

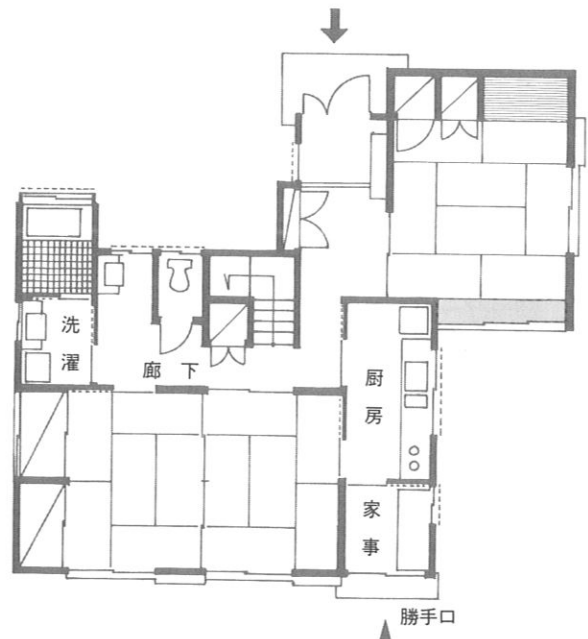


✕の例

家事を厨房の並びにまとめて設けています。しかし依然として洗濯は脱衣室内です。物干しへは家事室から出入りするので、洗濯場から物干しまではかなり遠いといえます。

家事室と厨房との間にとびらがありますが、あまり必要性はありません。

その他の問題として、廊下は奥に行く程薄暗くなる点があげられます。



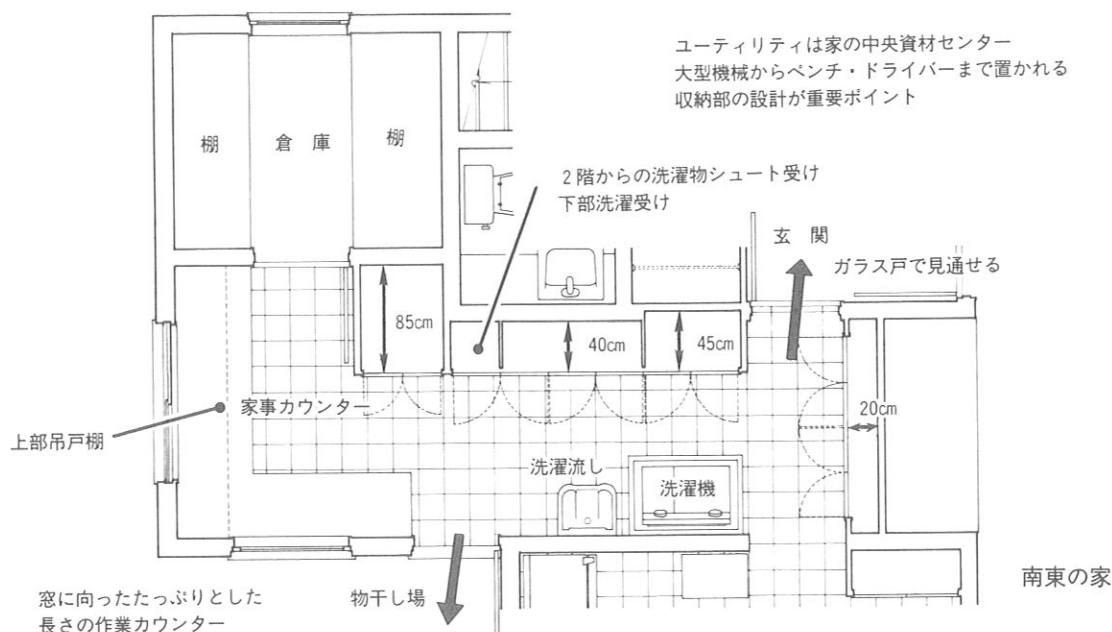
設計例「南東の家」は厨房との間接連続型のひとつです。ユーティリティとしては充実しているものです。

窓に向った、たっぷりとした奥行きと長さのあ

るカウンターが設けられています。そのカウンターには小物を収納する多くの引き出しなどの収納部分がついています。

出し入れの多い大型の清掃用具などの専用の収納部分、あまり使用しない物を収納しておく吊戸棚などがあり、総収納量はかなり大きいといえます。

す。このときの収納部の深さは、押し入れのように深くせず、物に合わせた深さとするのがよいでしょう。また2階からシュートにより落された汚



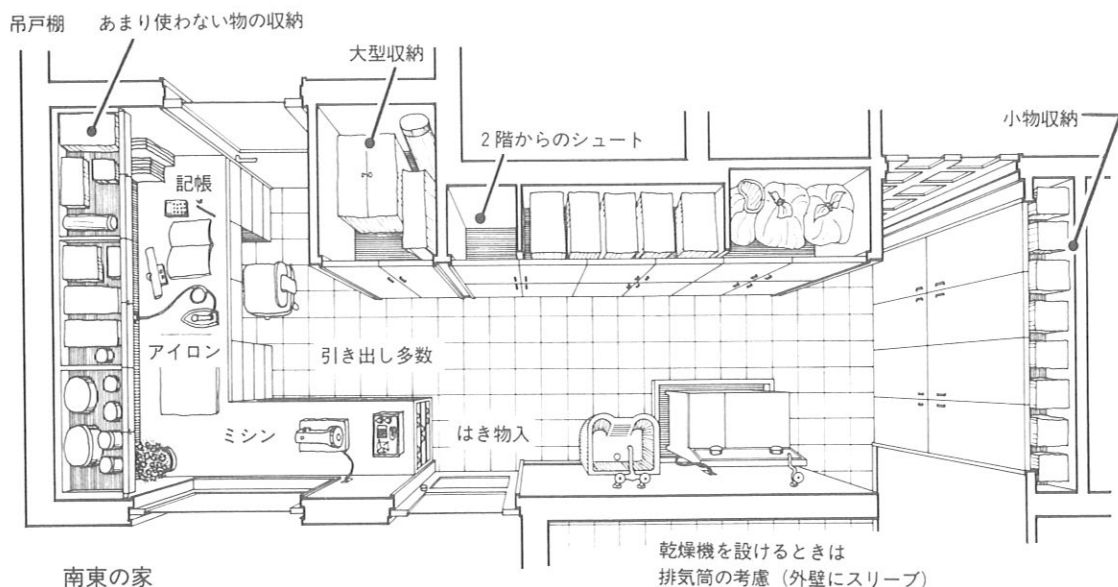
れ物を受け一時ストックの物入れがあり、その下部は洗剤などの置き場となっています。

照明は全体照明の他に、カウンター上部や洗濯機部分に棚下灯を設けます。

換気は開けられる窓があれば特に考慮しません

が、洗剤の臭気を拡散させない為に小型換気扇を設けることもあります。乾燥機を使用するか否かも検討しておく必要があります。

冷暖房は小型のヒートポンプエアコンがよいでしょう。



4 玄関

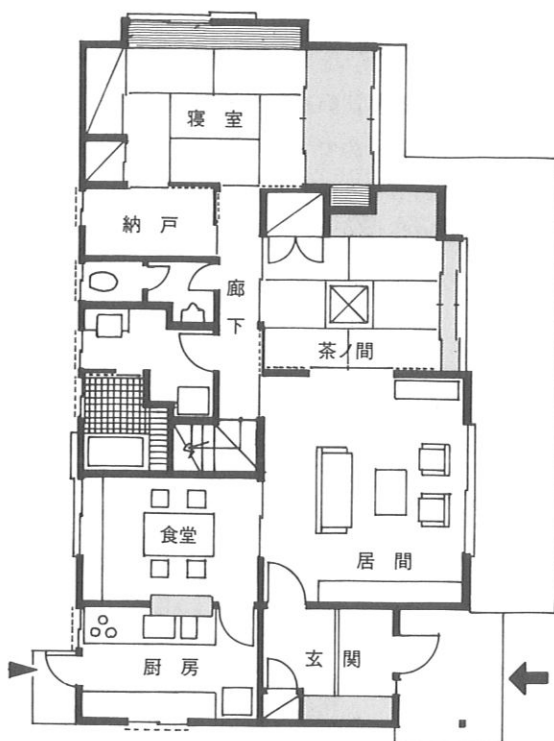
玄関は住いの顔であるとはよくいわれることです。アプローチは別に考慮することとして、ポーチなどの玄関周辺を含めた空間を合わせて考えてみることにします。

✕ の例

玄関はその家に入ったときの第一印象を与える空間であり、内部に招き入れられない外来者も、玄関には立つのです。玄関の空間は家全体を暗示します。

この例は基本的うっかりミスともいえますが、玄関にはひとつも外の光が入らないのです。昼間でも電灯が必要です。そしてどこにも続かず孤立していて閉鎖的です。

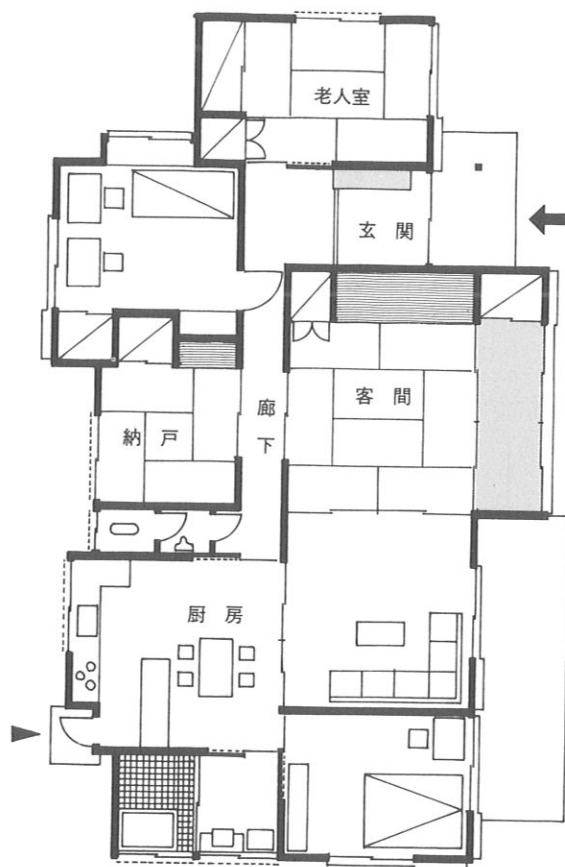
家全体も、各室がバラバラに独立しています。廊下にはまったく光がとどかず暗くなっています。家としては大きいのですが閉鎖的で陰気です。玄関が家全体の造りを暗示しています。



✕ の例

玄関ホールは孤立ではなく、廊下とつながっていますが、中廊下であり、納戸や客間の出入り口をしょうじにでもない限り、暗く陰気です。この玄関にはやはり昼間でも明が必要です。

玄関と家事空間が遠く離れています。老人室が離れ島的に家族室から分離していることはあまりよいこととはいえません。



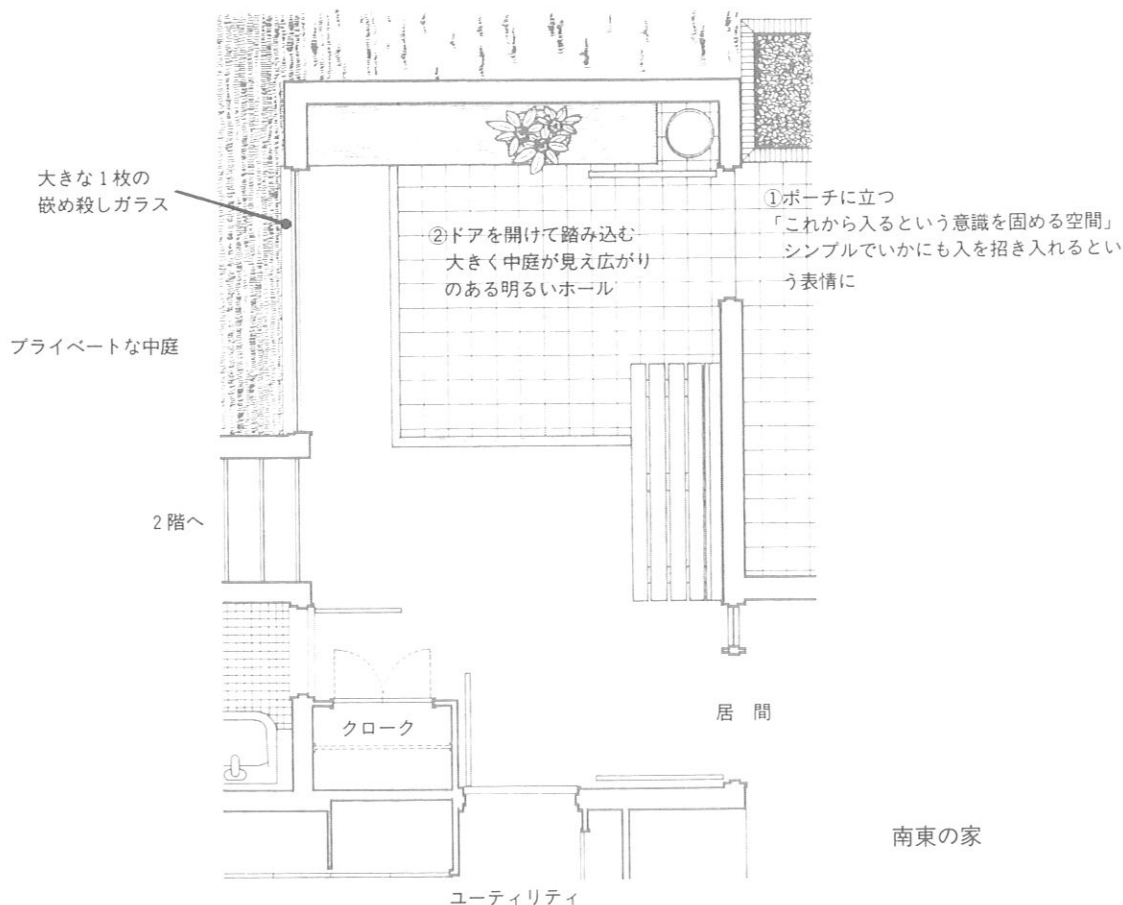
設計例「南東の家」を例とします。

外からアプローチしてポーチに立ちます。ここは「これから入る」という意識を固める空間です。シンプルで暖かく、いかにも人を招き入れるという表情としたいものです。建売住宅などでは一点豪華主義のつもりか玄関のまわりだけにゴテゴテとタイルを貼ったり、大げさな彫刻のドアを取りつけたりしているものが見受けられます。あく

まで家全体とのバランスであり、このようなものは滑稽でさえあります。

ドアを開けて玄関内に入ります。

設計例では踏み込みの正面を1枚の大きな嵌め殺しガラスとし、プライベートな中庭を見せています。内部に入ったにもかかわらず、そのまま中庭に出てしまったような造りをしてあります。



玄関機能の第一は下足のはき替えです。

下足を脱ぐ習慣のない海外の住宅では「玄関」というスペースは見当らず、ドアをあけるとすぐに居間であることも多いのです。

玄関には収納がつきものです。靴、傘、コート類が共通の収納物で、場合によってはゴルフバッグ、野球用具なども置かれることがあります。靴はあくまで日常的に履くものを玄関の下足入れに

収納しておくのであり、年に数回しか履かないものまで収納するのではスペース的に無理があります。既製品下足入れには内部に傘を収納できるように作られたものがありますが、濡れているまま収納することはしないので、一時立てしておくスペースは必要です。

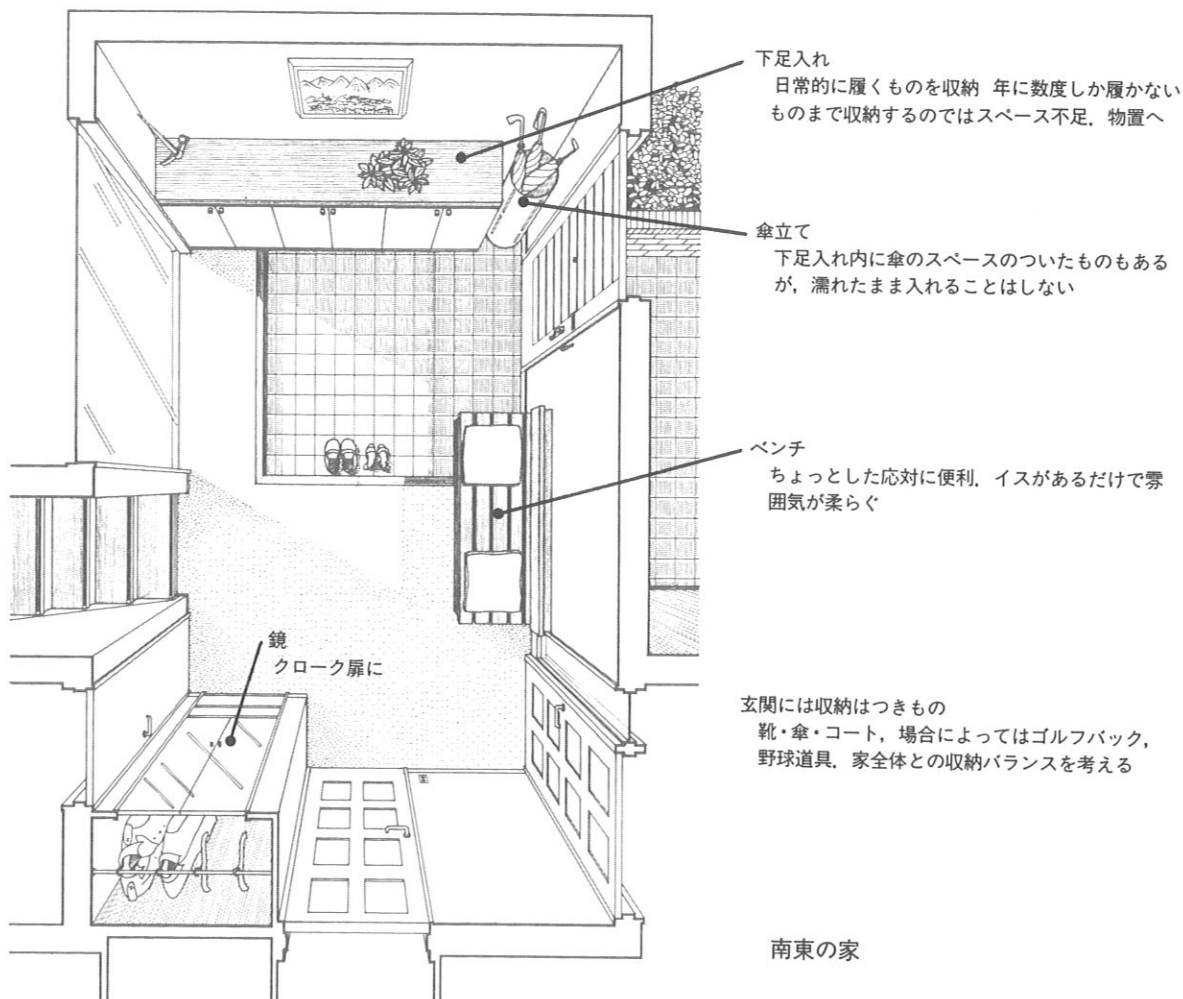
小さな心遣いとして、あまり目立たぬ場所に鏡を取り付けておくことは、これから外出しようと

している者、あるいは外来者にとっても、親切なものです。

またベンチはちょっとした応対に便利であるばかりでなく、すわることのできる場所があるだけ

で雰囲気やわらぐ効果を期待できます。

玄関が住いの顔であるからには、はき替えがしやすいということだけでなく、狭いながらも豊かなスペース造りをしたいものです。



吹抜け

玄関の空間などに活気や開放感、あるいはダイナミックさを持たせる手法として吹抜けを造ることがあげらる。

ファッション的住宅雑誌などでは決って「吹抜けのある家」をとり上げている。吹抜けは、ごく自然に天井が高くなった構成が好ましい。どうしても吹抜けを設けようと無理をすると、部屋の中の一部が、井戸を底から見上げるような状態になってしまうなど、落ちついた空間が乱される原因ともなりかねない。居間などではそうした吹抜けの下にソファなどを置くことが行なわれるが、上から物が落ちてきそうな心理状況になり、ゆっくりと座ってはいられないものである。

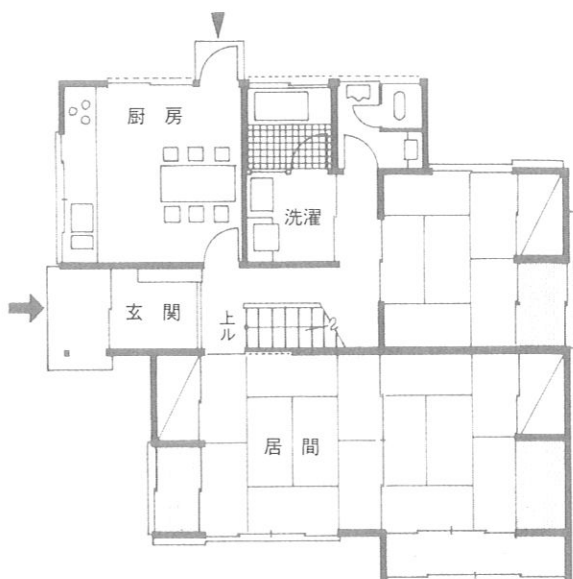
5 階段・廊下

廊下は住いの中の各所を結ぶ重要な部分です。小住宅では全体規模におのずと制約があるので、必要最小限に抑えたいものです。以下に注意点をいくつか述べることにします。

✕の例

全体的面積の制約の中で、廊下や階段の部分をできるだけ少なくし、より多くを各室に割り振ろうとするときに、玄関ホールへ多くの動線を集中することが行なわれます。この例もそうした例です。しかしあまりにも玄関と階段が直接でありすぎます。すなわち、玄関の土間に立っている人の頭の上から人が降りてくることになり、また土間に立っている人の顔前におしりをつき出して昇っていくことになります。

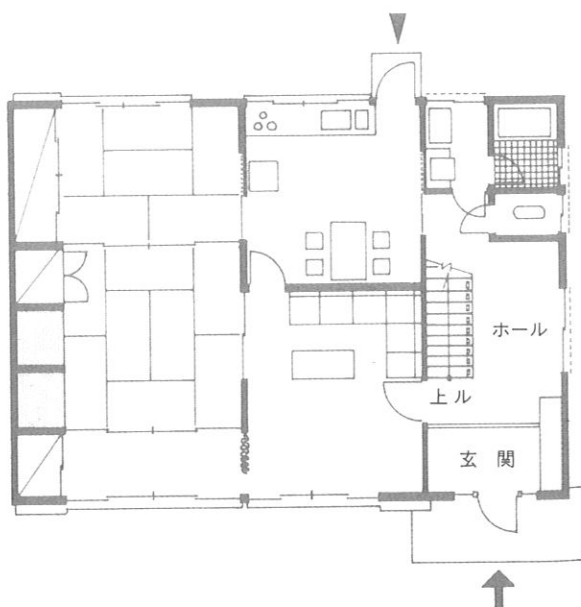
その他の問題点は食堂と居間の連絡が悪い、厨房と洗濯室の連絡が悪い、玄関から2階の子供室が直通のことなどがあげられます。



✕の例

この例は階段を装飾的に扱い、ホールを演出しようとしたものです。しかし多くの場合、期待した効果は得られず、昇り降りには前例と同じ問題が生じます。

この場合はさらに、浴室、トイレの出入口がホールに面しており、浴室から、2階の個室に行くには、この階段を使わなければなりません。階段は装飾よりも実用であることを忘れてはいけません。



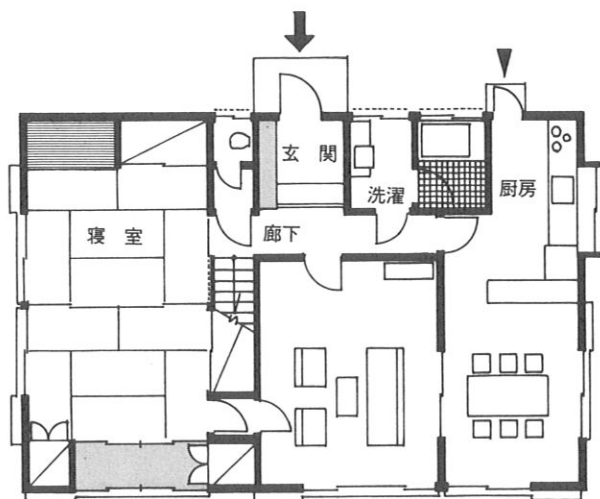
通過部分の面積節約のために居間を通過して各室に出入りすることもよく行なわれます。居間はだんらんの場であり、通路ではないので、この場合はかなり落ち着きがそこなわれます。また居間からトイレの出入りが直接見えたりすることも好ましいことではありません。居間の一部に通過動

線を取り込む場合は、通路部分を明確にし、プライベートな部屋への出入りは直接見えない工夫をしておかなければなりません。居間内部に通路部分を設けることにより、廊下と居間を壁で隔ててしまうよりは、壁なしとして構成する方が居間がその分広くなるので小住宅では有効な方法です。

✕の例

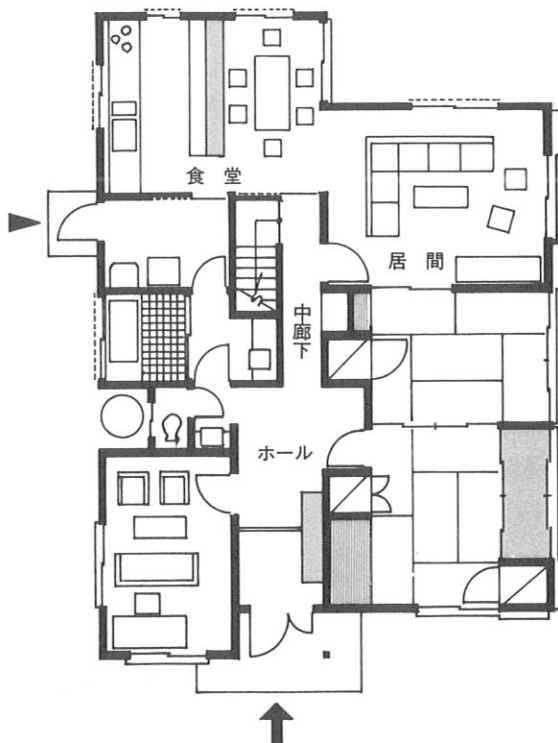
玄関の閉鎖性ともからんで、廊下が外に面さず、採光することができず同時に、換気、通風も計ることができません。空気のよどんだ重苦しい暗い空間です。居間の出入口ドアをガラス入りドアにしておくことが最小限必要です。

その他にも家事空間の分散、浴室から寝室への動線内に玄関が含まれ、玄関から2階の子供室に直行できるなど問題が多いといえます。



✕の例

大きな面積の家に多くの小部屋を設けようとすると生まれてくる中廊下です。ホールと廊下から各室に出入りできる点はよいのですが、なんといっても薄暗いのです。この場合は廊下の奥へ進むと、細くなったところに、居間出入口、食堂出入口、階段昇り口と、多くの人、多くの動きが集中しています。



中廊下はひとつの廊下の両側に諸室を並べるものです。

部屋数が多くかつ廊下面積を節約する目的では有効です。しかし中廊下はどうしても採光条件が悪く、換気・通風にしても廊下のはずれの窓からするしかないような陰気な閉鎖空間となりやすいのです。

どうしても中廊下にせざるを得ない場合では、天井を抜き開閉可能な天窗を設けるなどの手段を構じる必要があります。

基本的には中廊下式を採用しなければならないような多数の小室を設けることは、小住宅では避けるべきです。

6 寝室

寝室の大きさは、使用する寝具とその他に置かれる家具の量、そしてゆとりをどれだけ必要とするかによって決定されます。

- ① ベッドを使用するかフutonを敷くか。
- ② 書斎のコーナーを寝室内に設けるか否か。
- ③ 衣服の収納をつくりつけの収納壁とするか、あるいは単独にタンスを置くか。

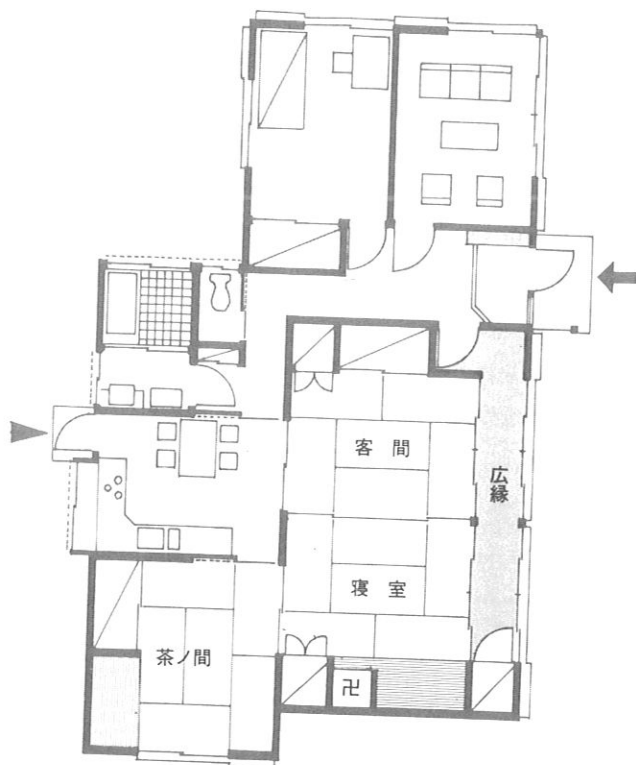
④ 夫人の化粧のコーナーを寝室内とするか。上記が基本的な検討項目といえます。このほかに夫婦のくつろいだ会話のコーナーや、酒類を並べておくコーナーが要求されたりします。

✕ の例

何かの時の多人数の来客に備えて大広間としても利用できるように、と昔ながらの考え方で和室を並べたものです。茶の間、主寝室、客間、広縁までも含めて、開け放そうとする例です。

夫婦寝室には少なくとも洋タンス1本、整理タンス2本はあられると思います。床の間や、仏壇のついた、あちらこちらにフスマやしょうじの入った部屋にはタンスは置けませんから、茶の間とはいえ、主寝室専用のタンス部屋的に使われるのでしょう。

最大の問題点はプライバシーの問題です。三方がすべてフスマや障子であり、どこでも開くし、話してもつつぬけです。

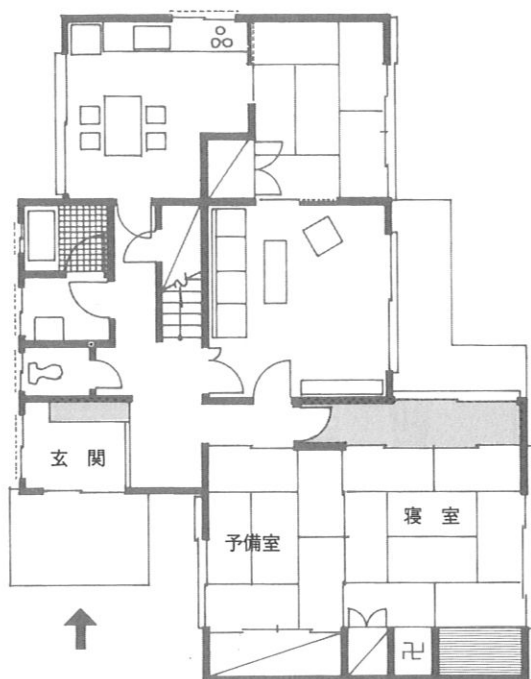


Xの例

前例程ではないですが、やはり続き間のひとつが主寝室です。床の間を設け接客の構えです。

三方がフスマや障子であり、タンス類はフスマにかかって置かれ、かつ客間にも置かれます。

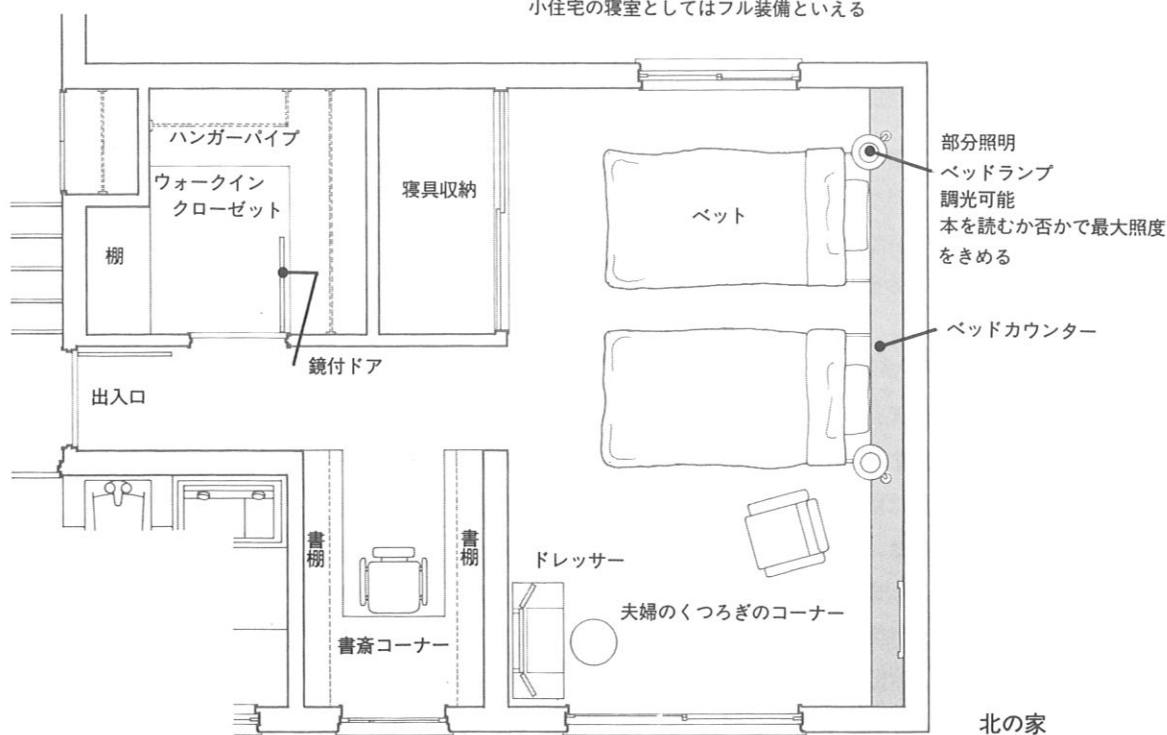
この例では、寝室と浴室の動線に玄関ホールが入ってきます。



設計例「北の家」は洋室でベッドを使用しています。

独立した納戸、クローゼットと書斎コーナーを持ち、その上に対話のコーナーも持っています。小住宅の寝室としてはフル装備といえます。

小住宅の寝室としてはフル装備といえる

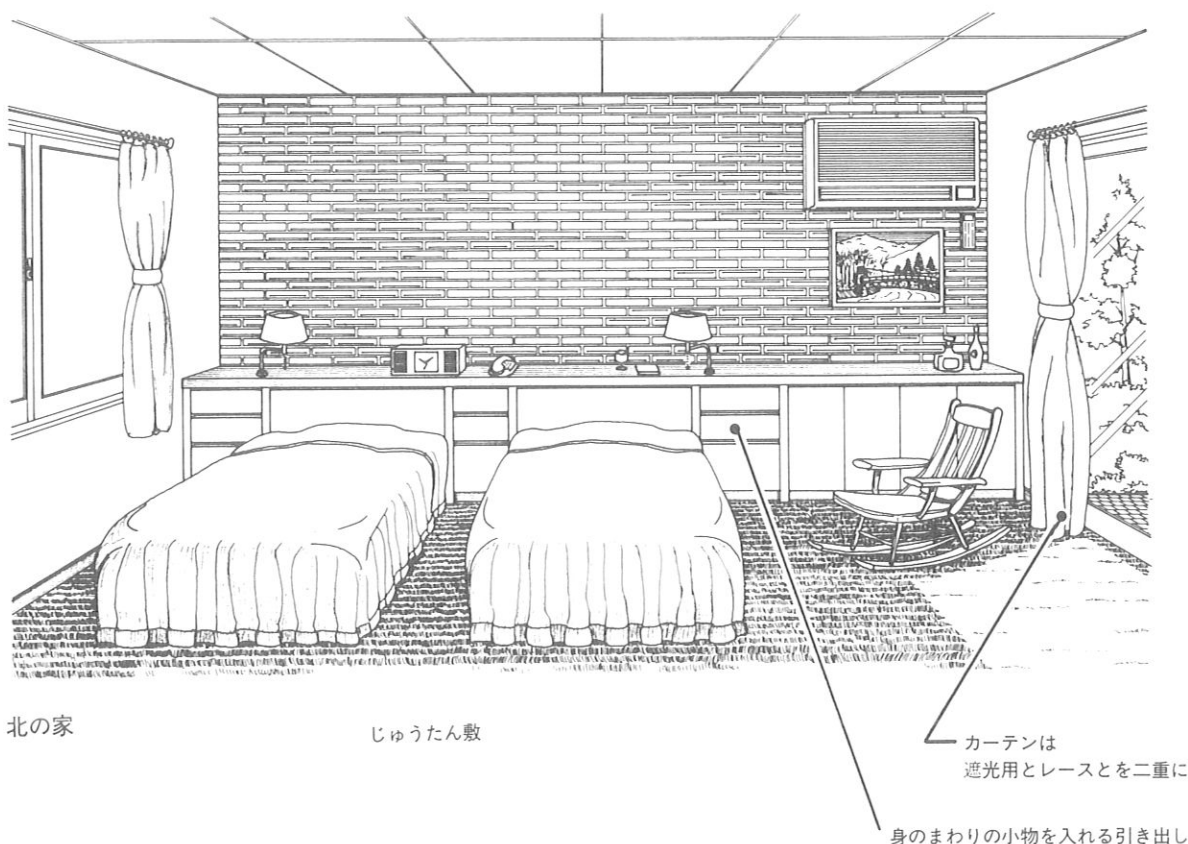


北の家

頭の上の壁には吊戸棚を設けない

見上げる天井面はスッキリとさせ全体照明は足元天井に

吹出風はベッドに直接当たらないよう
エアコン取付位置注意



北の家

じゅうたん敷

カーテンは
遮光用とレースとを二重に

身のまわりの小物を入れる引き出し

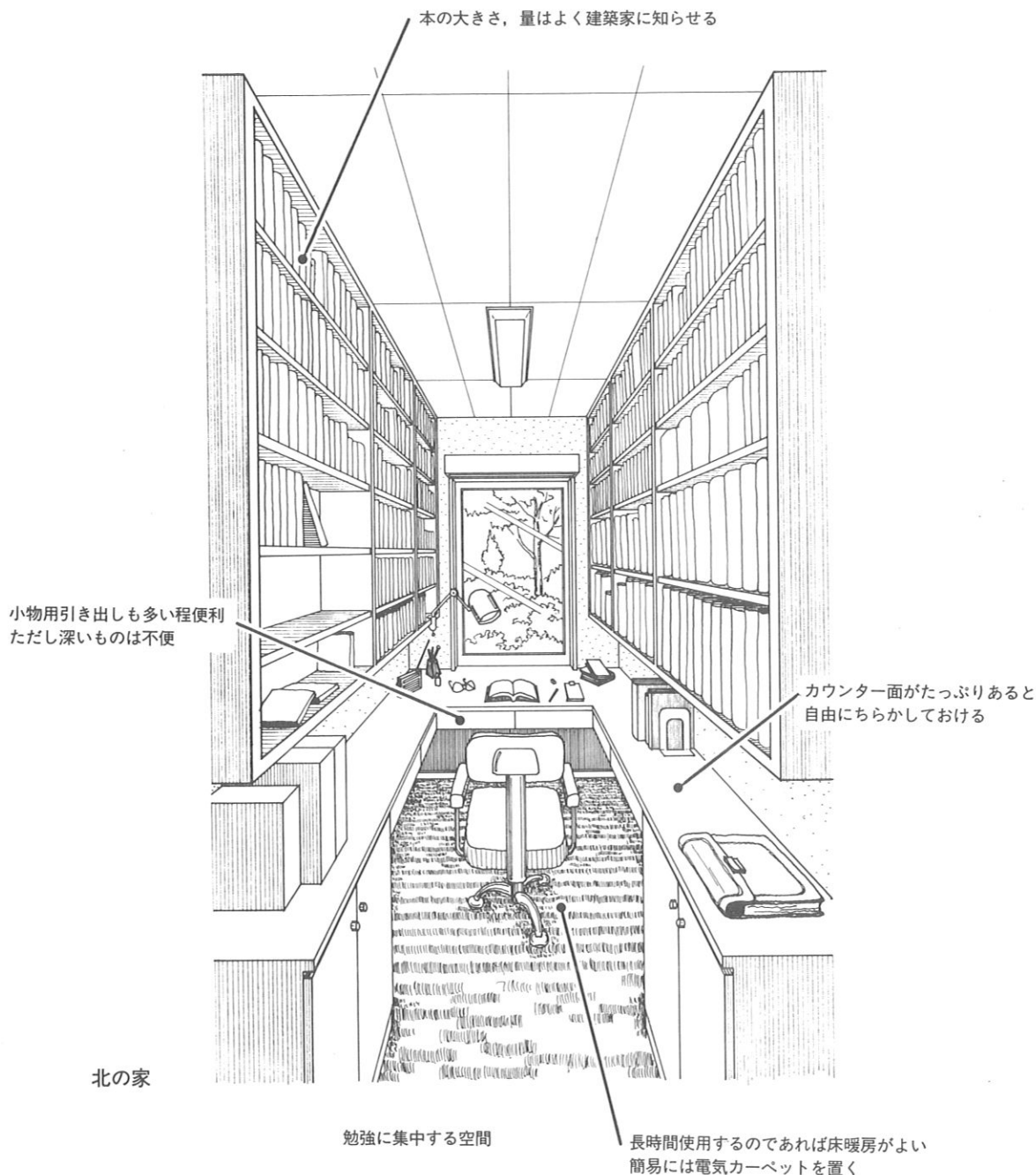
ベッドカウンターには個人の身のまわりの小物を収納できるような小さな引き出しの類が必要となります。ベッドの頭の部分には小棚があると便利です。

照明は全体照明と枕元灯を使用します。寝た状態で見上げる天井面はすっきりとしているのがよいでしょう。全体照明は部屋の中央部ではなく、ベッドの足元近くにおき、光源が直に見えないように埋め込み型などとします。枕元灯はベッドで本を読むか否かで選択が異なります。

いずれの場合も、全体照明、枕元灯共に、それぞれ調光できることが望ましいでしょう。

冷暖房は吹き出す冷温風が寝ている人に直接当たらない位置に取り付けます。一般にはヒートポンプ式エアコンがよいでしょう。長時間使わずにいて、寝る前に短時間暖めて止めてしまうのであればガス焚きのクリーンヒーターがよいでしょう。

書斎コーナーを長時間使用する場合には床暖房が望まれます。簡易な方法としては設備として特に考慮せず、電気カーペットを置くのもよいでしょう。



北の家

北の家の寝室内書斎コーナーは、じっくりと本を読む、あるいは物を書く人に向いているといえます。一家の主が、その人の居る場所として書斎を構えるという事についていろいろといわれています。しかし書斎をもってもよほどの勉強家でない限り、じっと書斎にこもっているのは難しいようです。独立した一室として設けるかどうかは十

分に検討しなければなりません。多くの場合はコーナーでよいようです。

書棚を設ける場合は、まず蔵書をよく調べます。大きさがばらばらです。そしてかなり重いので、一般に行なわれる可動式棚は全書棚の半分以下におさえないものです。蔵書はかなり固定的に置かれるので、その分は固定棚がよいでしょう。

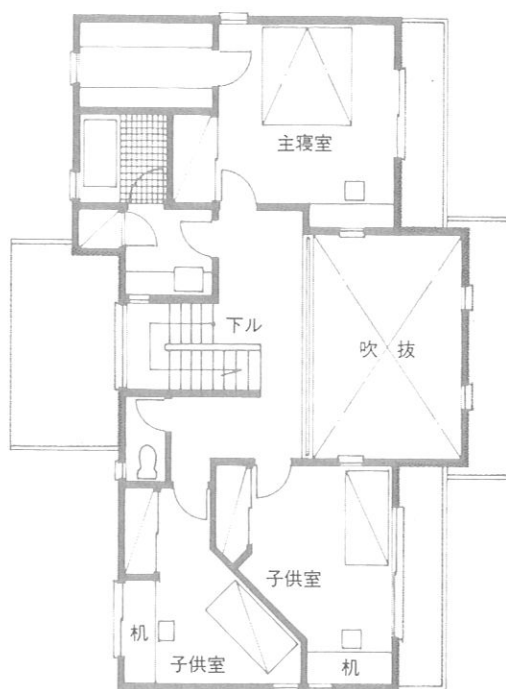
7 子供室（個室）

対象となる「子供」には幼児から成人まであり、ここでは未婚の「子供」全般について考えてみましょう。

✕ の例

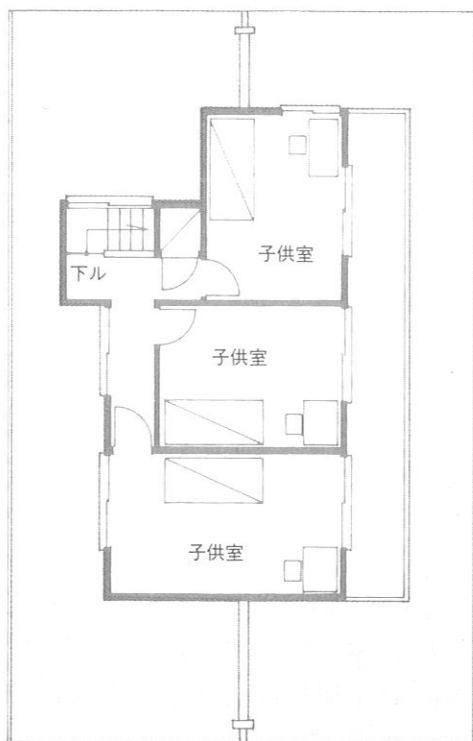
子供室にかぎらず、個室はよほど特殊な設計意図および要求がなければ、変形な形の部屋は避けた方がよいでしょう。この例は木造であるので45°の壁ができたのですが、コンクリート造であると自由度が大きく、一部のみ曲面の壁を造るなどが可能です。居間などの動的な部屋ではよい効果を上げることが期待できても、静的に眺める部屋の壁が折れていたり、曲がっていることは、ひどく視点が定まらず、心理的に不安定となります。

またこの例では机が造り付けとなっていますが、窓との対応が悪く、暗かったりまぶしかったりの状態がおきます。



✕ の例

この例の子供室は空間的にゆったりとし過ぎています。余分な面積を居間などの家族室にまわしたいものです。この子供室の余裕にはちょっとしたソファセット、テレビ、ステレオなど何でも置くことができます。友人が訪れば応対場所は自室内ということになります。自室と居間の使いわけ、家族とのコミュニケーションのしかたなどは家庭教育の重要項目と思われます。



夫婦の寝室はかなり長期間、木造の家であれば耐用年数とほぼ同じだけ固定的に使用され、大きな改装などは行なわれないことが多いといえます。しかし子供の使用する個室はその部屋の住人の成長変化に応じて絶えず変化します。小さくは室内の家具の変化移動から、大きくは家全体の増築や改築が必要となる場合もあります。また子供の数はもとより、性別によっても家としての対応が求められます。子供の成長と家の対応を順を追ってみましょう。

- ① 乳児期は個室を必要としない。居間で遊び、夫婦寝室の一角に寝る。
- ② 幼児期になると兄弟と共に寝るための部屋があることが望まれる。遊ぶ場所は家族の目の届く場所であり、個室はほとんど使われない。

- ③ 学童期は勉強するために個室が使われることもあり、多くの場合、机が与えられる。

しかし低学年では居間に本やノートを持ち出して学習すること多い。高学年以上では性別による分室が求められる。同性であっても上の子の学習が夜間にも行なわれるようになり、下の子の遊びや睡眠と分離する必要があるてくる。

- ④ 思春期以降の学生期には個室が確立される。

特に受験勉強期などは、食事時間以外は個室に入ったままという状況になることも珍しくない。

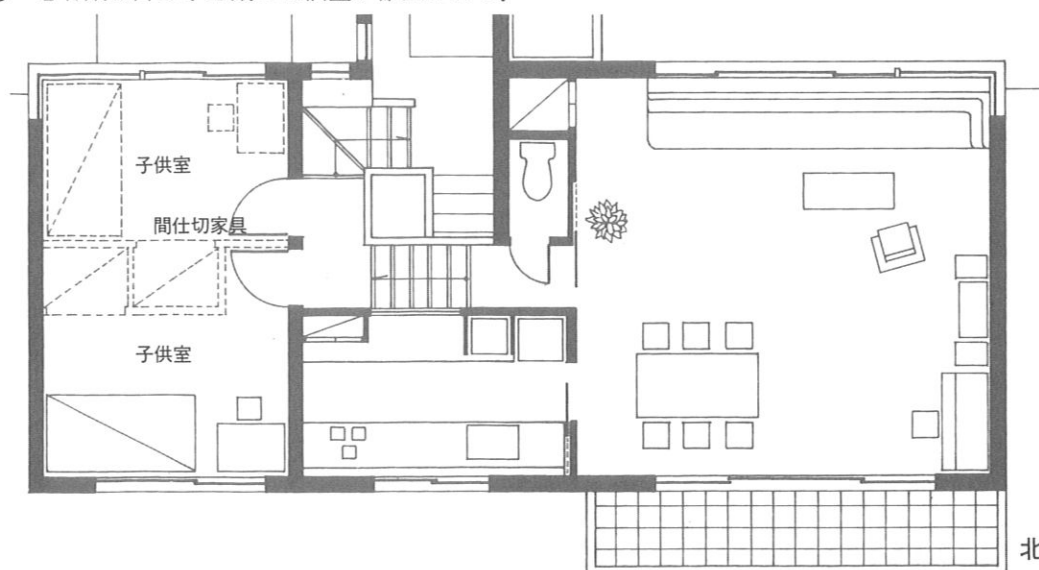
中学生、高校生の時期には何でも個室で行なおうとする傾向があり、一人で過す時間が多い。

- ⑤ 大学生、社会人となると再び居間で過ごす時間が長くなる。個室では一人で行うのが好ましいと思われることと睡眠をとることだけに使用されるようになる。

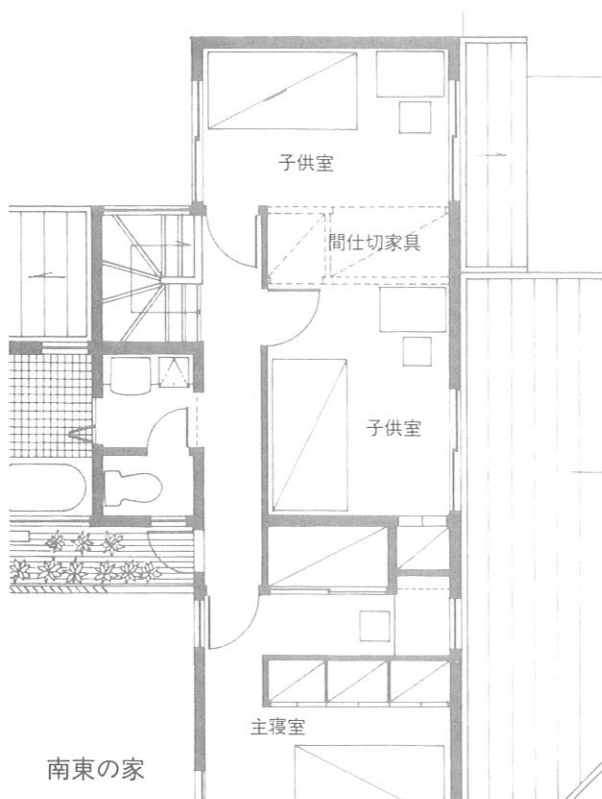
- ⑥ 結婚により家から独立する。しかし新しい生活の場が狭いアパートであったりすると、それまでの個室は旧住人の雑倉庫として使用されたり、里帰りときの「客室」となったりする。

家族はかなり計画的に構成されることが多いので、これらの成長変化を建設当初から見込んでおき、大きく手を加えることなく、内部的家具工事で対応することも可能です。

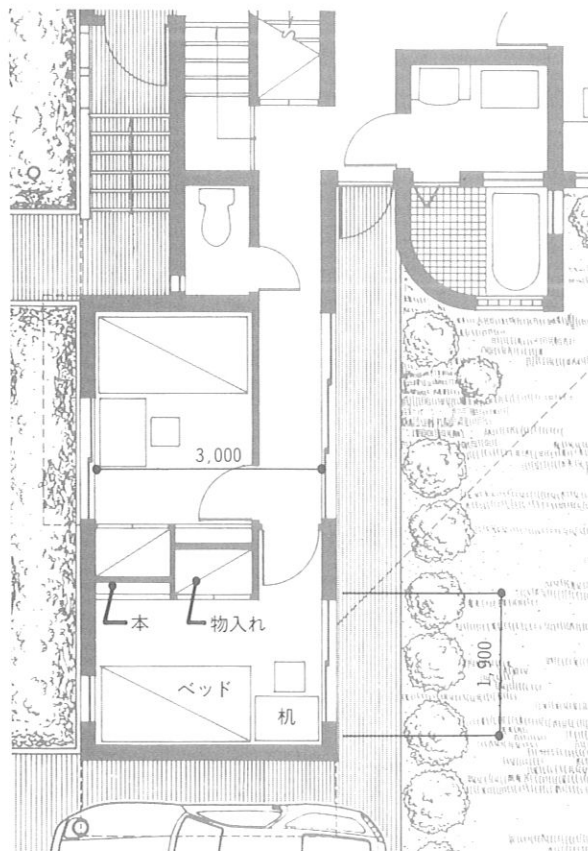
設計例「北の家」、「南東の家」、「南西の家」は約6帖大の2室を仕切らずにワンルームとして設けておき、間仕切収納家具をセットすることにより2室とすることを計画しています。



北の家



南東の家



全体計画ととも関係しますが、個室は少し小さ目に計画することがよいでしょう。

学習することと睡眠をとることのみに使用できればよいのではないのでしょうか。

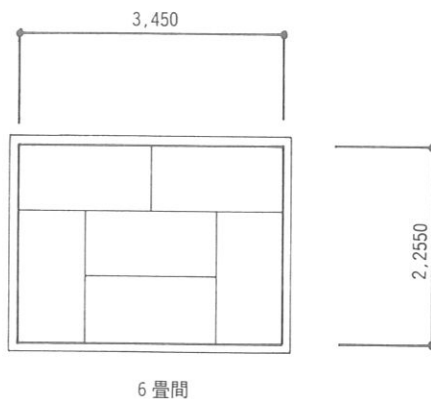
広い自室に、テレビ、ステレオ、小さな流しまで置いたのでは自給自足生活が成り立ち、子供は自室に閉じ込められてしまうかもしれません。大きさはせいぜい6帖大までです。もっと小さくともよいかもしれません。

設計例「西の家」では子供室は、ベッド、机、ロッカーひとつが置けるスペースのみです。多少居心地悪く造って置いて、居間に出て息抜きをするようにしむけるのはどうでしょう。

子供室そのものを与えるか否かについての各種の議論があります。多くの場合、青少年の非行問題にからんでの議論であり、かなり感情的なものまであります。

子供とても人格があり、干渉されない権利があります。基本的に個室は必要です。

住宅設計を業とする者にできることは、住宅内でのコミュニケーションの場を自然のうちに数多く生み出す空間的しかけを造っておくことです。



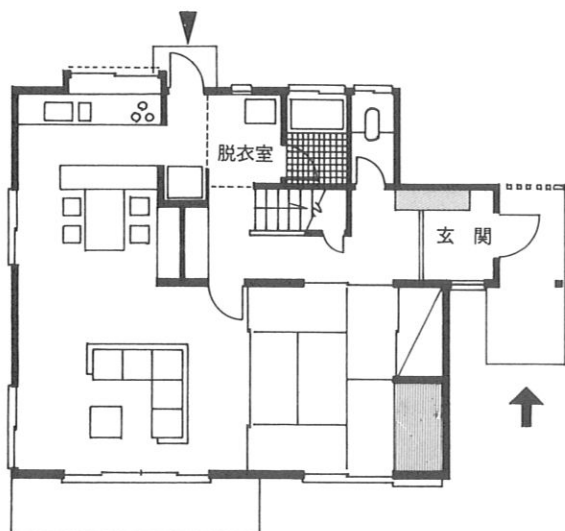
8 衛生・水まわり

衛生水まわりとは、主に浴室、洗面所、便所のことを指します。

✕の例

この例のトイレは玄関ホールからのみ出入りするようにになっています。玄関に来訪者のあるときは使用が思うにまかせません。浴室、脱衣室との全体的調整のなかで、玄関ホールからの出入りは避けたいものです。

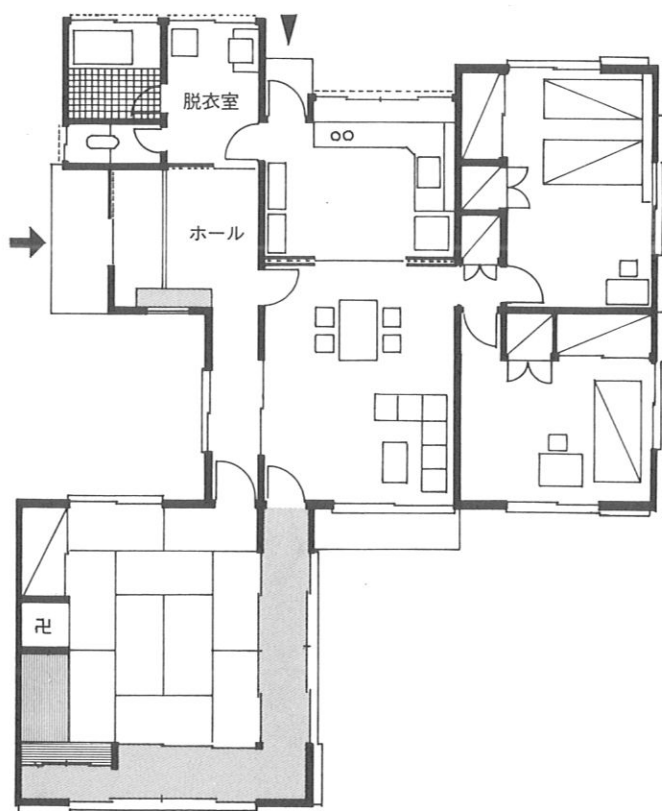
次に和風便器の使用です。好み、習慣の問題やその家の事情もありますが、健康上も洋風が望ましいといえます。そして和風に内開きドアは最悪の計画です。万一内部で倒れた人が出た場合には、その人がじゃまになってドアを開けることができないからです。



✕の例

浴室とトイレに同じ脱衣室を通して入るものです。この例では家全体にトイレは1カ所です。入浴中、もしくは更衣中のトイレの使用は家族間でも制約がある場合が多いと考えなくてはなりません。また家の中に来客がある場合は、来客のトイレ使用を考慮して入浴が自由にできないこともあります。

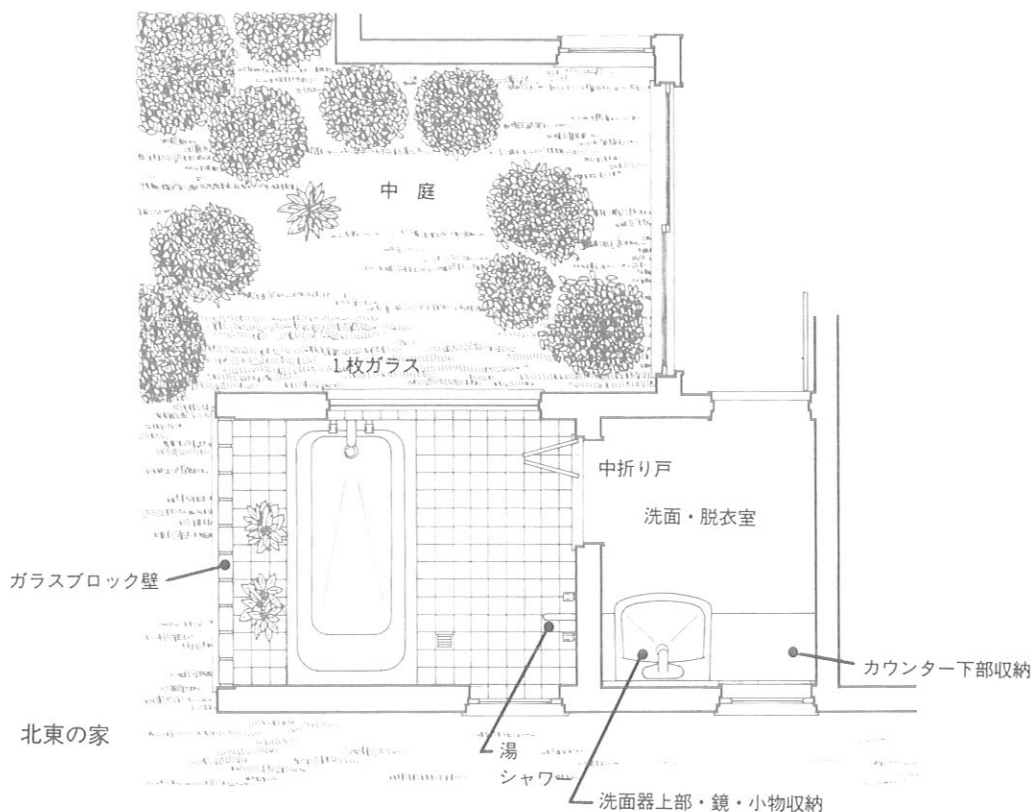
この例ではトイレドア、浴室ドア共内開きです。浴室は水納まりから内へ動かすことが普通ですが、老人がいる場合などには、引戸式もしくは折り戸式を考慮したいものです。



浴室は本来、身体の清潔保持を目的として使用します。しかし日本人は風呂に入ることを衛生目的のみとせず、楽しみとしてきました。すなわち、一日の疲れをとるべくゆったりとくつろいだり、親子のコミュニケーションの場としても使用する

のです。よって、明るく、広く、湯のたっぷり張れる浴槽を置くことが理想とされています。

小住宅においては全体の面積配分上、あまり広びろと造るわけにはいきませんが、多少の工夫により明るく広い感覚の浴室とすることができます。



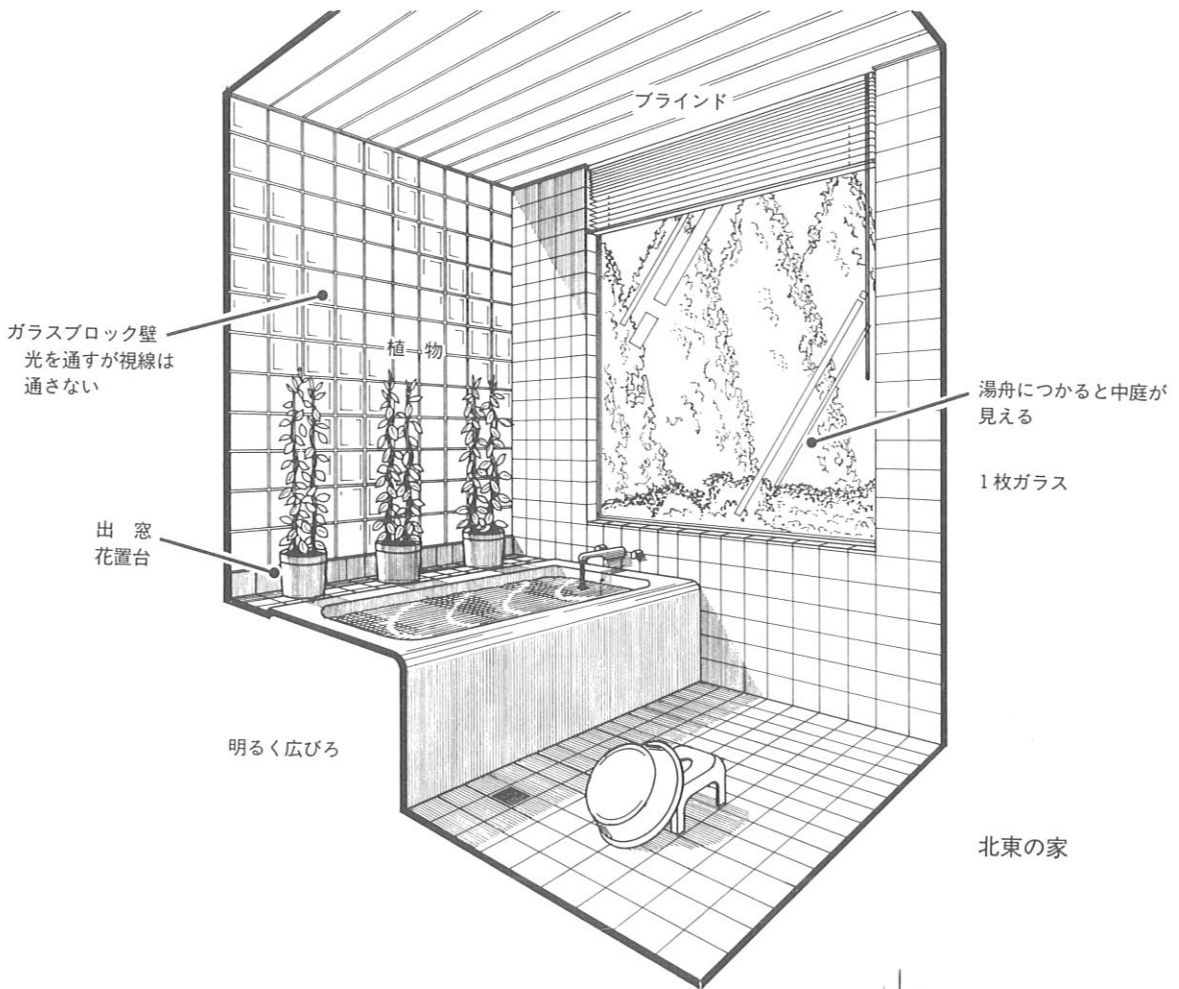
設計例「北東の家」では湯舟につかると、正面に大きな嵌め殺し透明ガラスを通して中庭が見えます。左手は浴槽のすぐ上から出窓とし、草花を置く台となり、その出窓の壁は光は通すが視線は通さない全面ガラスブロックにより構成しています。

洗面所は多くの場合、既製の洗面化粧台を置いて構成します。人造大理石カウンターと洗面器を組み合わせた水を流す部分と収納部分とから成っています。

洗面所が浴室の脱衣室を兼ねる場合、脱衣カゴや、タオル、下着類の収納部を設置するスペースを確保しておかなければなりません。

設備として、換気扇と、洗い場床に埋め込んでおく床暖房器があげられます。窓からでは湿気の排出が十分ではないので、防湿処置をした浴室用換気扇を取り付けます。床暖房は冬のタイルの冷たさを解消してくれます。

ぜひ設けておきたいものに手すりがあります。老人のみでなく、健康な人にも便利なものです。出入口のすぐ脇と、浴槽の淵をまたぐ位置との2カ所にあった方がよいでしょう。



北東の家

便所の注意点は、暖房便座やシャワートイレの使用の有無を明確にしておくことと、専用の掃除用具の収納スペースを設けておくことです。老人の使用があるならば、手すりをつけておくことも忘れないようにします。

図は“汽車式洋式便器”とでも呼ぶものです。

和式には男子小用を考慮して一般床よりも30cm上った位置に便器を取り付けるものがあります。洋式の場合は普通に取り付けると便器上面が床より約36cmとなり、男子小用の場合は多少不便を感じながらもそのまま使っているのが一般です。

この例の場合、男子小用では下の床に立てば便器上面が床面より約76cmとなりかなり改善されます。大用、女子では上の段で普通に使います。足も普通におくことができます。

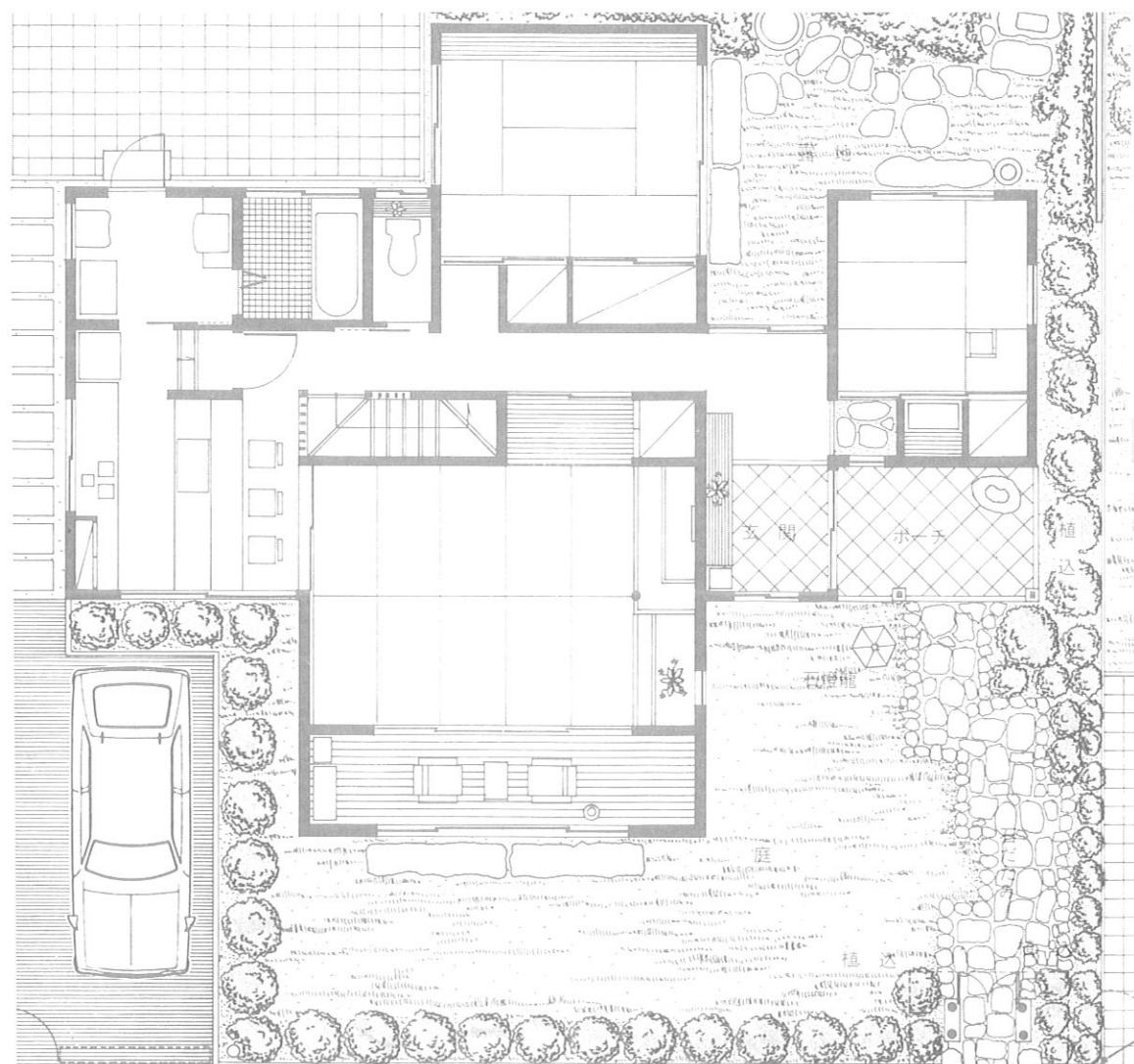


9 アプローチ

アプローチとは敷地内に入ってから、玄関に行きつくまでの外部空間です。「各室の設計」の9の項目となりましたが、「屋根のない部屋」として十分に演出を考慮したいものです。人の歩かせ方、即ち道のつけ方、その道の舗装方法、植栽の配置、外灯の配置、歩くにしたがっての見えるものの変化と玄関への誘導方法が主な検討項目です。

明るく、楽しく、その家の品格を十分に引き出すものにしましょう。

設計例「南の家」は全体的に和風造りです。植込みに囲まれた数寄屋門をくぐり、石だたみを進みます。曲折し、石燈籠を見て、大きな軒下に入ります。軒下は広く、家全体のゆったりとした構成を暗示しています。

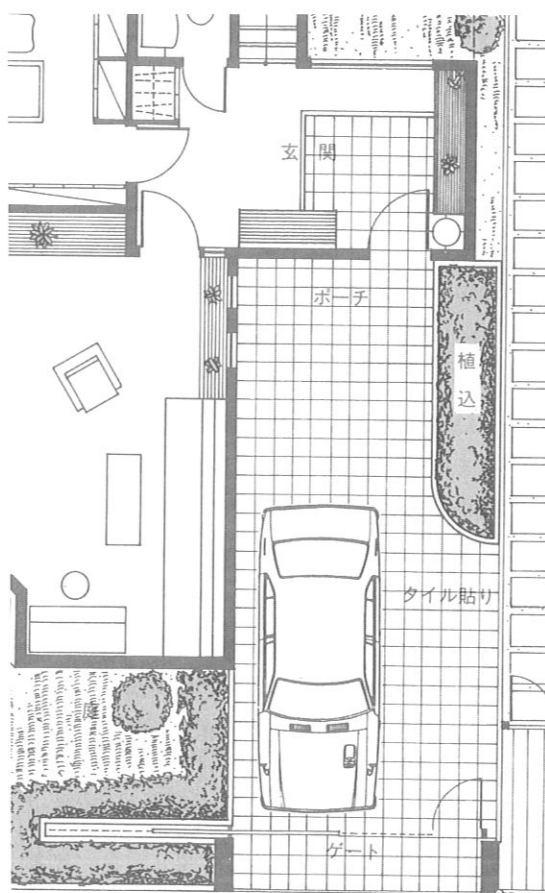


南の家

道路

数寄屋門

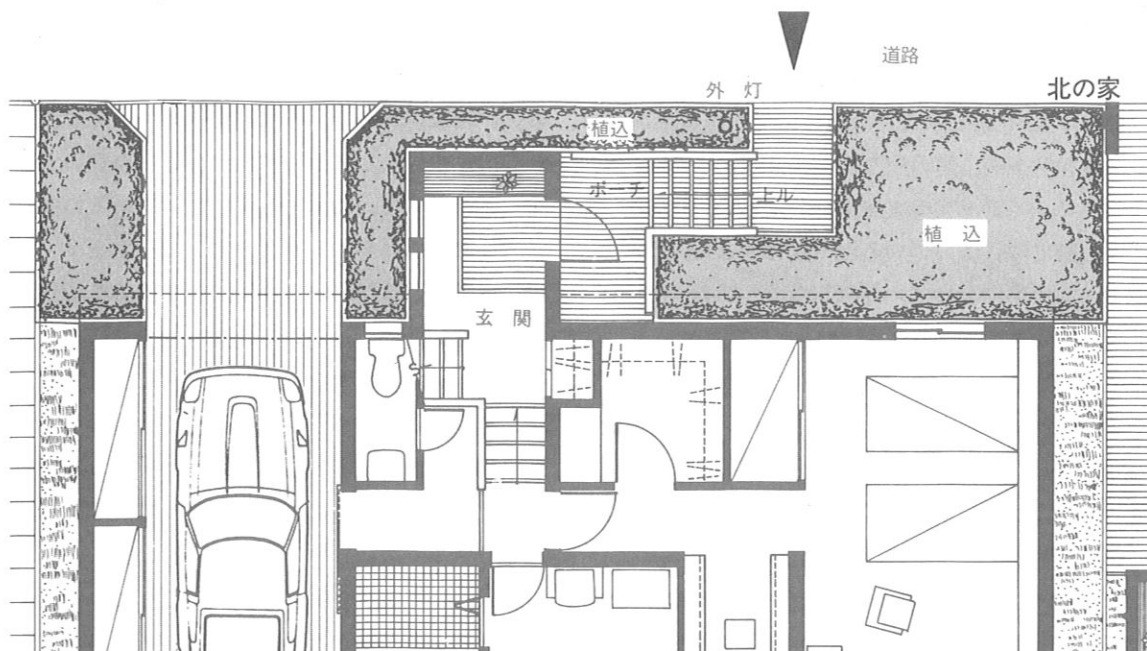
「南東の家」のアプローチは駐車スペースを兼ねているので広々としています。道行く人の雨宿りの空間としても使えるよう配慮したゲートをくぐります。床には大型の明るい色のタイルを敷きつめています。ゲートを入るとすぐ左に庭の緑を見ます。玄関ドアへ進むとタイル貼りのドライな空間にワンポイントとしての植え込みの緑があります。四季の草花も植えるとよいでしょう。



南東の家

道路

「北の家」の玄関は地面よりも1.5m程高い位置にあります。道路から、たっぷりの緑をわけ入ったように敷地内に第一歩を踏み入れます。そして同じくたっぷりの緑の中の階段を6段上るとポーチです。北入りは多少とも雰囲気暗いのが欠点です。ここで道路を背にしてはますます暗くなりますが、この例では高い位置から道路は横に見おろしています。



北の家

道路

外灯